日本建築協会

2001 Nov. 11



建築と社会

Architecture and Society

特集　私の空間作法　－会員作品－

「日本建築協会80年史1917-1996」

増刷頒布中　頒価　3,000円

1999年7月に発刊した「日本建築協会80年史1917-1996」は、各方面から好評をいただいておりますが、このたび、皆様の強いご要望により、増刷・頒布することにいたしました。大正6年3月30日に関西建築協会として誕生した日本建築協会の80年の歴史を、様々な事業や委員会活動を通じて、また、本会設立者の片岡安、武田五一以降現在までの会員たちの社会活動を通して知ることができる記念誌として、A4判・240頁にまとめています。

とくに、協会草創期の大正・昭和初期の片岡安ら協会のメンバーと当時の大阪市長・関　一との交流を物語る一文は、大阪の都市計画史、あるいは関西の建築人物誌ともなっています。本会の歴史を知るだけでなく、建築を通して、それぞれの時代の雰囲気を身近に感じることができる大変貴重な資料となるものです。

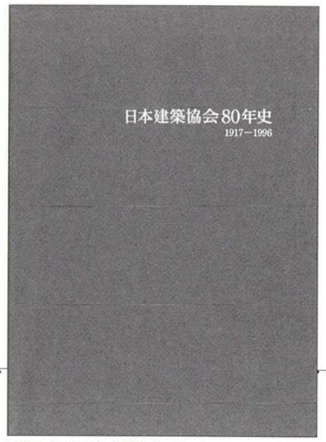
購入ご希望のかたは、下記要領でお申し込み下さい。

＊

申 込 先　社団法人 日本建築協会
〒530-0001　大阪市北区梅田1-1-3-2100
TEL 06-6348-0635　FAX 06-6348-0634

頒　　価　1部3,000円(税・送料込み)

※増刷部数には限りがございますので、お早めにお申し込み下さい。



A4判・240頁・並製本

「日本建築協会80年史」

●日本建築協会の沿革／委員会活動／「建築と社会」の変遷／大正時代から現在までの本会主催の博覧会・展覧会・講演会／よろず相談住宅展／青年建築家・青年技術者顕彰／工高生デザインコンクール入選者etc.

●日本建築協会創立者と会を支えた38人のプロフィール（片岡　安・設楽貞雄・武田五一・池田　實・波江悌夫・竹腰健造・尾崎久助・東畑謙三・塚本猛次・福田朝生・佐野正一・葛野壯一郎・横濱　勉・松本禹象・宗　兵蔵・園部文雄・日高　胖・野村一郎・古宇田　實・松室重光・松井貴太郎・安井武雄・中澤誠一郎・坂　靜雄・今林彦太郎・井上新二・松本儀八・池田宮彦・錢高輝之・中西六郎・大林芳郎・鴻池藤一・伊東五郎・竹中錬一・鷲尾健三・松村雄吉・横尾義貫・足立　孝）

●座談会「戦中から戦後初期の協会活動」―尾亀清四郎・大林芳郎・小西　岬・佐野正一・横尾義貫・三品哲夫の6氏による終戦前後の協会活動の証言―

＊

■執筆ワーキンググループ

坂本勝比古／安達英俊／石田潤一郎／植松清志／梅宮弘光／桐浴邦夫／酒井一光／橋寺知子／山形政昭／吉田高子／和田康由

■80年史編纂委員会

長谷部朔郎／安達英俊／近藤達夫／谷淳之介／十倉　毅／原見昌志／和田康由／吉田悦二



「日本建築協会の遺産と功績」（坂本勝比古）より



「草創期の人々」より片岡安の項

会告

2001建築関係団体合同忘年懇親会

日　時　平成13年12月14日(金)
　　午後6時～7時30分
会　場　太閤園迎賓館
　　ダイヤモンドホール（ビュッフェ・スタイルのパーティー）
　　大阪市都島区網島町9-10
　　電話 06（6356）1111
会　費　8,000円
●11月27日(火)までに事務局へお越し下さるか、現金送金にてお申込み願います。
●申込者には忘年懇親会参加証をお渡しします。
参加者　350名予定

お願い
(1) 申込の際に氏名・勤務先をお知らせ下さい。
(2) 申込者で12月3日(月)までに欠席の連絡がない場合は会費のご負担を願います。
(3) 当日は参加証を必ずご持参願います。

2002建築関係14団体合同新年交礼会

日　時　平成14年1月4日(金)
　　午後2時30分～3時30分
会　場　マイドームおおさか・3階
　　大阪市中央区本町橋2-5
参加者　770名予定
会　費　5,000円（当日欠席されても会費をいただきます）
申　込　12月7日(金)までに会費を添えて最寄り団体にお申込み下さい。
共　催　㈳日本建築協会／㈳大阪府建築士会／㈳日本建築学会近畿支部／㈳日本建築家協会近畿支部／㈳大阪電業協会等

第47回工高生デザインコンクール入選者発表

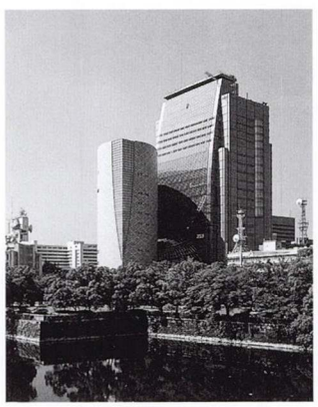
— 設計課題：ライブハウス —

日本建築協会主催による平成13年の標記コンクールの入選者が、右記のとおり決定いたしましたので発表します。なお、入選作品は平成14年1月号に掲載いたします。
●応募校数 / 30校
●応募作品数 / 123点

入選・最優秀賞	川村　晃	三重県立四日市工業高等学校	3年
入選・優秀賞	牧　英梨奈	大阪市立工芸高等学校	3年
入選・優秀賞	田中　弘晃	私立名古屋工業高等学校	3年
入選	橘　麻保	大阪市立工芸高等学校	3年
入選	山口　玲子	大阪市立工芸高等学校	3年
入選	深町昌広／橋本潤也(共同制作)	大分県立日田林工高等学校	2年
入選	石原　令子	高知県立高知工業高等学校	3年
入選	井上　喜雅	私立名古屋工業高等学校	3年
入選	城戸　貴則	私立名古屋工業高等学校	3年
入選	永戸　清之	三重県立伊勢工業高等学校	3年

順不同・敬称略

話題建築を聞く 第32回 NHK大阪新放送会館・大阪歴史博物館（再掲）



本プロジェクトは、大阪市の「難波宮跡と大阪城公園の連続一体化構想」の一環として、現NHK大阪放送会館を道路を挟んで西隣りの旧中央体育館跡地に移転し大阪市立の大阪歴史博物館と一体の複合施設として計画された。当敷地を含むこの地域では、大阪の歴史的ルーツとされている難波宮の貴重な遺構が確認されている。遺構の保存と活用を図りつつ21世紀の情報発信基地であるNHK大阪新放送会館と、多様な芸術や文化情報を発信する約1,400席の多機能ホール、大阪の歴史を語る大規模博物館のそれぞれの機能を整備し、一体的にかつ有機的に相乗効果が発揮でき、大阪の過去と未来を結ぶ文化のシンボルとなる建物をめざす。
建物デザインでは、NHK棟を垂直の曲面、水平の曲面がゆるやかにセットバックして空へ伸びゆく形態とし、博物館棟を水平の曲面による紡錘形とし、公共施設として印象に残るシンボリックな形態とした。両棟のそれぞれの施設の特性を生かした曲面・曲線の外壁形状は、それぞれの独自性を主張しながらも複合建物としての一体性をつくり出すことを意図した。

（種村俊昭）

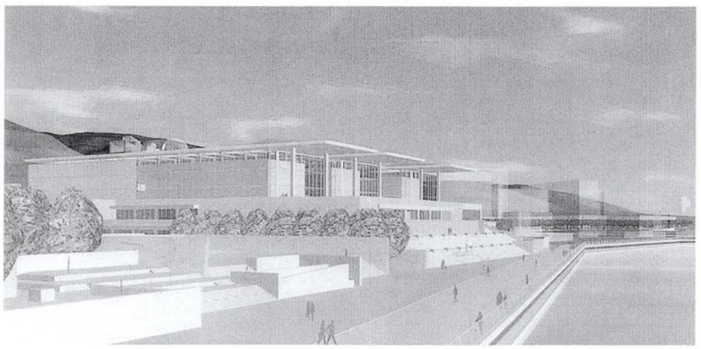
日　時　2001年11月21日(水)
　　18:30—20:30
会　場　日本建築協会サロン
　　＊大阪駅前第3ビル21階
講　師　種村俊昭
　　日本設計プロジェクト部長
定　員　30人
　　＊申込者多数の場合は抽選
参加費　会員1,000円、一般1,500円
　　学生500円引　＊税込
申　込　11月13日(火)までに、ハガキ、FAX、電話でお申込み下さい。
①催し名：話題建築／NHK
②氏名
③個人会員・団体会員・一般の別
④職場・学校名
⑤参加証郵送先
⑥連絡先電話番号
をお知らせ願います。
＊参加証を11月14日(水)に発送します。
申込先　(社)日本建築協会事業課
　　大阪市北区梅田1-1-3-2100
　　TEL.06-6348-0633
　　FAX.06-6348-0634
　　〒530-0001
主　催　(社)日本建築協会
　　事業委員会情報小委員会
　　担当主査：大井昇二／大林組



種村俊昭(たねむら　としあき)
1951年滋賀県生まれ
1976　大阪市立大学工学部建築学科卒業
1978　同大学院工学研究科建築学専攻修了
1978-82　安藤忠雄建築研究所
1984　日本設計入社
現在　日本設計関西支社プロジェクト部長
主要業務
上野市立図書館、流通科学大学、上野市だんじり会館、滋賀県立安土城考古博物館、M邸、宝塚新老人福祉センター
●建築概要
所在地　大阪市中央区大手前4-6-35
建築主　日本放送協会、大阪市
設計監理　NHK技術局開発センター(建築技術)
　　大阪市住宅局営繕部
　　日本設計、エヌ・ティ・ティファシリティーズ、シーザー・ペリ アンド アソシエーツ ジャパン設計JV
施　工　大林・竹中・戸田・三井・安藤JV
敷地面積　12,999.93㎡
建築面積　7,480.26㎡
延床面積　90,026.41㎡
構造規模　S・SRC、B3・18F・P2
最高高さ　134.965m
工　期　1997年12月～2001年4月

兵庫県立新美術館「芸術の館（仮称）」見学会

（再掲）



「兵庫県立新美術館」は、兵庫県と神戸市が進めている復興計画のシンボルプロジェクトと呼ばれる、東部新都心計画の一部であり、神戸市の中心部からやや東に行った、約12haの広さを持つ、大手製鉄会社の工場跡地が敷地である。２本の阪神高速道路に挟まれた、神戸港の最深部にあたり、この施設のほかにも震災復興住宅をはじめとする市街地復興の受け皿となる計画が進められている。

この美術館は、震災からの文化の復興のシンボルとして位置付けられ、震災前の阪神間の原風景を残す石壁の基壇部と未来を見通すガラスの箱とで構成される。ガラスの箱は、純粋に美術を鑑賞する展示室を内包し、その余韻を楽しみながら、外部の自然も楽しめる内と外をつなぐ回廊とで構成される。基壇部は、隣接する水際広場やハーバーウォークと一体となり、閉館時も屋外展示空間としてはもちろん、東部新都心全体の庭として一般に開放される。隣接する「神戸市水際広場」は、様々なイベントスペースとなる円形広場を核とし、震災への精神的支援として、各政令指定都市からの協力による植樹で、兵庫県の県木クスノキの鎮守の森も作られている。　（武藤　隆）

●建築概要

所在地	神戸市中央区脇浜海岸通
建築主	兵庫県
設計	安藤忠雄建築研究所
監理	兵庫県営繕課・安藤忠雄建築研究所
施工	大林・清水・鴻池・神鋼興産建設・明和・山田JV
敷地面積	約19,000㎡
建築面積	13,586.53㎡
延床面積	25,335.98㎡
構造規模	SRC（免震構造）、B1・4F
工期	1999年3月ー2001年9月
オープン	2002年4月（予定）

日　時　2001年**11**月**15**日（木）
13:30—17:00
講　師　増田繁治/兵庫県県土整備部まちづくり局営繕課長
武藤　隆/安藤忠雄建築研究所
小林英博/JV工事事務所所長
集　合　現地/神戸市中央区脇浜海岸通
＊阪神「岩屋」駅より徒歩10分
＊JR「灘」駅より徒歩15分
定　員　100人
＊申込者多数の場合は抽選
参加費　会員 500円、一般 1,000円
＊税込
申　込　11月7日（水）までに、ハガキ、FAX、電話でお申込み下さい。
①催し名:兵庫県立新美術館見学会
②氏名
③個人会員・団体会員・一般の別
④職場・学校名
⑤参加証郵送先
⑥連絡先電話番号
をお知らせ願います。
＊参加証を11月8日（木）に発送します。
申込先　（社）日本建築協会事業課
大阪市北区梅田1-1-3-2100
TEL.06-6348-0633
FAX.06-6348-0634
〒530-0001
主　催　（社）日本建築協会
事業委員会見学会小委員会
担当主査：坂本良高/大林組

まちなみ見学会

第6回

滋賀・五個荘町

近江商人発祥の地
白壁と蔵屋敷の町

（再掲）



日　時　2001年**11**月**17**日（土）
13:30—16:30
講　師　林　純/五個荘町教育委員会
廣瀬彌三郎/近江商人屋敷館長
見学先　①五個荘町金堂地区町並み
②近江商人屋敷/旧外村宇兵衛・繁家、旧中江正次家、他
集　合　てんびんの里文化学習センター
＊滋賀県五個荘町竜田583
＊JR東海道本線「能登川」駅より近江バス10分＋徒歩10分
定　員　30人
＊申込者多数の場合は抽選
参加費　会員 1,500円、一般 2,000円
学生 500円引　＊含入館料・税
申　込　11月9日（金）までに、ハガキ、FAX、電話でお申込み下さい。
①催し名:まちなみ見学会
②氏名
③個人会員・団体会員・一般の別
④職場・学校名
⑤参加証郵送先
⑥連絡先電話番号
をお知らせ願います。
＊参加証を11月12日（月）に発送します。
申込先　（社）日本建築協会事業課
大阪市北区梅田1-1-3-2100
TEL.06-6348-0633
FAX.06-6348-0634
〒530-0001
主　催　（社）日本建築協会
事業委員会見学会小委員会
担当主査：松本　剛/大阪府



五個荘町は、近江八幡・日野と共に近江商人発祥の地として広く知られています。なかでも金堂地区は幕末から明治・大正・昭和戦前期にかけて多くの商人が輩出しました。

商人達は「てんびん千両」を合言葉に全国津々浦々を行商し、やがて豪商へと出世し、郷里に立派な本宅を築いています。広大な敷地を板塀で囲み、内部に切妻や入母屋造の主家を中心に数寄屋風の離れや土蔵・納屋を建て、池や築山を配した大きな庭園が特徴です。

金堂地区の町並みは、古代条里制地割を基礎に陣屋と社寺を中心に形成された湖東平野を代表する農村集落です。加えて、近江商人が築いた意匠の優れた白壁と舟板塀の蔵屋敷、縦横に流れる小川のせせらぎ。そこには、旅人にとってなつかしい日本の「原風景」と文化遺産が息づいています。金堂地区は平成10年12月に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。

錦秋あでやかな「てんびんの里」を、一日散策しませんか。

読者と織りなす

たて糸よこ糸

「建築と社会」では、読者の声を誌面づくりに役立てるために、皆様の意見と、編集担当者の声を掲載していきます。

■建築雑誌

私自身、建築雑誌は結構よく見る方である。現地にいかなくてもすぐに必要な情報が入手できる便利なものである。人気のある本は、出版される部数も多く、また読者も多い。本に掲載される内容や執筆者の考えは、本を読む人にはかなりの影響を与えるものではないか。それがゆえに編集される方の苦労というものは、大変なものだと思う。

建築雑誌は専門誌であるが、掲載される建物写真やパースには一般の人も気軽に入り込める。インテリアや庭園、彫刻、建築のようで建築でない建物、歴史的に価値のある建物や風景そのものまで…。建築はさまざまな場面に存在し、社会の重要なところに位置付けられ、その役割は大きい。

今回、本誌10月号「緊張」特集をまとめることになってかなり悩んだ。企画テーマを何にするかに始まり、その企画案も二転三転し、執筆依頼期限ぎりぎりまで企画案を練り直した。執筆者の選定にも時間がかかり、何度かトライしなければならなかった。編集するにあたって読者の視点にたって、いま何が求められているのか何に興味があるのか、いろんな書物を読み漁ったり、人に意見を聞いたりと、苦労は絶えなかった。でも、製本が届いたときはそれまでの苦労は少し吹っ飛んだような気がする。

私自身、愛読している建築雑誌が他にある。最新情報がたくさん掲載されていたり、読者の的を射ていると思う。編集に携わり、「建築と社会」という雑誌は、何を目指そうとしているのか、その存在意義について疑問視するところである。

（編集委員　T・K）

■「秋」を「住まう」

めっきり肌寒くなってきた。ついこの間までの暑さがうそだったかのようで、たちまち冬になってしまうのか？　秋らしい秋は一体どこへいったのか？

どうも近年、秋が減ってきているような気がしてならない。日本の気候が変化してきたのか、それともわれわれの体の機能・感覚が進化（退化？）してきたのか……自然や人間の変調に責任を押し付けてしまえば話はそれまでであるが、「住まう」術の変化にも、いくらかその一因を見いだせるような気がする。

夏は自然の「涼」を積極的に取り込み、冬は衣類を着込んで「暖房」の助けで寒さを凌ぐ、これが我が国の風土に根差した伝統的な住まい方というものであったと思う。この「住まう」常識に、「空調」という装置が一種の革命をもたらしたような気がする。少々大げさかもしれないが、この装置、「冷房」という自然の営みを超越した作用のゆえ、厳しい夏の暑さが徐々に凌ぎやすくなってくる季節の「（ゆるやかな）移ろい」というものを消し去ってしまっているのではなかろうか？「秋」は暑いと寒いの「狭間」であり、この狭間が短くなれば変化の勾配が急になるのは当然のことである。

食欲・運動・読書・芸術等々、秋は豊かな人間生活のリソースであった（ある、これからも恐らくそうありつづける）と思う。今年の秋、季節の狭間を実感し満喫する術を改めて見つめ直し、豊かさを実感できる「住まい」の在り方を考える「秋」にしてみようと思う。

（編集委員　Y·M）

切り取り線

「建築と社会」読者アンケート

「建築と社会」では、読者の方々のご意見を参考に、充実した誌面づくりをめざしております。今月号で、とくによいと思われた作品、記事、その他についてのご意見をFAXでご送付下さい。
なお、このご意見は、読者と選ぶ第2回『建築と社会賞』の1次選考に反映されます。

□とくによいと思われた作品

よいと思われた理由

□とくによいと思われた記事

よいと思われた理由

□その他、本誌についてのご意見や、取り上げてほしい内容などがありましたらご記入下さい。

2001年11月号

送付先：
㈳日本建築協会
「建築と社会」

FAX 06-6348-0634

お名前 _____

□ご意見は、“たて糸よこ糸”欄に取り上げさせていただくこともありますが、その場合はイニシャルのみを掲載させていただきます。

勤務先 _____　TEL _____

「建築と社会」誌

特集一覧●1979〜2000

大正6年3月に誕生した日本建築協会（当時・関西建築協会）の、機関誌は大正6年9月に「関西建築協会雑誌」と題して創刊された。大正8年に「日本建築協会雑誌」、さらに1年後には「建築と社会」と改題し、今日に至っている。

取り上げてきた特集テーマは下記のとおりで、バックナンバー購入希望は、日本建築協会事務局（TEL 06-6348-0635、FAX 06-6348-0634）まで。販売価格は1200円（送料・消費税含）。

号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1979 vol.60	●転換期の再開発＊	●大阪南港ポートタウン＊	●商業空間＊	●コンクリートのひびわれ	●日影規則＊	●ホテル建築と情報システム	●農村施設の変貌＊	●建築の終局強度の検討	●庄内のまちづくり＊	●80年代のインテリア＊	●第26回青年技術者＊	●建設業の労務事情＊
1980 vol.61	●80年代の都市と建築—まちづくりの歴史と展望	●今後の省エネルギーの趨勢 ●建築金物	●最近の銀行建築 ●安井建築設計事務所作品集	●住宅の耐久性＊	●建築行政と法規＊	●最近の防水工法	●都市景観とアメニティ＊	●屋内体育施設の設備＊	●水ぎわのまちづくり	●今後の外装吹付仕上材＊	●第27回青年技術者 ●転機にたつマンション・集合住宅	●これからの建築設計と新耐震設計法＊
1981 vol.62	●職能論＊	●中国の論文—北京の都市計画＊	●ポートピア'81＊	●台所まわりの計画と設備＊	●シーリング材の知識＊	●災害と法—安全な環境をめざして＊	●都市住宅—住まい手からの発想＊	●建築物と風—デザイナーのために ●日建設計作品集＊	●住宅・都市整備公団—関西における都市整備を中心とした新公団の役割＊	●間仕切壁の性能評価＊	●第28回青年技術者＊	●障害者の暮らしやすい環境と設備
1982 vol.63	●新たな商業空間の展開＊	●省エネルギーと開口部＊	●医療施設—地域医療と設備計画＊	●近畿の地盤と地質＊	●都市景観—まちなみ美観への誘い＊	●大阪市庁舎（第1期）＊	●ホール建築と音＊	●大スパン構造＊	●昭和設計作品集＊	●絵本にみるすまいとまちづくり ●オー・エム・ホテル日航ビル	●第29回青年技術者 ●地方の庁舎建築＊	●風土・空気と人間＊
1983 vol.64	●関西の建築文化を考える	●マイコンの建築への利用	●多様化する運動施設＊	●建築と品質管理	●計画におけるコミュニケーションとプレゼンテーション	●大阪駅とターミナルビル	●維持管理と設備更新	●東海の将来と文化を考える	●オフィス・インテリアの変革	●プレストレスト・鉄筋・コンクリート構造	●第30回青年技術者 ●大阪城国際文化スポーツホール＊	●集合住宅と生活音
1984 vol.65	●21世紀への関西—魅力あるまちづくりを問う	●関西の超高層ビル＊	●ビルのリフレッシュ—内外装補修技術の現状と発展—＊	●建設産業とロボット開発＊	●住環境と法制度	●まちの活性化と商業空間 ●京都駅南口再開発ビル＊	●消防設備のポイント	●みどりとそれをとりまく人々＊	●高齢化社会と生活空間	●床の構工法	●第31回青年技術者 ●ディテールの思想	●光応用システムと建築
1985 vol.66	●大阪湾物語＊	●東海の現在と近未来	●自由様式への道—建築家安井武雄 ●建築物の基礎を考える	●情報化をめぐる建築・都市事情	●ホール—それが生みだす文化—	●建物の表情—最近の外壁材料	●大阪国際見本市新会場	●建築と水の演出 ●神戸研究学園都市	●都市と健康・スポーツ	●接合—人体と建築にみる— ●日建設計作品＊	●村野藤吾の一断章 ●伊勢湾をめぐる東海	●第32回青年技術者
1986 vol.67	●これからの住空間—都市型集合住宅にみる	●屋根—そのデザインと素材	●現代デザイン—ポストモダニズム10年 ●これからの防水工法	●インテリジェントビルの建築・設備計画	●自治体営繕と公共建築	●建築防災と法 ●大阪市庁舎（第2期）	●21世紀の住宅と設備	●開発—その創造的仕掛けの鍵をもとめて— ●ツイン21	●CAD—その応用と展開	●オフィス空間の構成	●第33回青年技術者	●インテリア・イクステンションとリニューアル
1987 vol.68	●入浴物語	●腐食	●創立70周年記念号	●躍動する東海へ	●貯蔵・保管施設 ●大阪府立体育会館	●室内の仕上床	●駅	●行政建築家の可能性	●シティホテルの設備	●宝塚の街づくり＊	●建物と町並みの接点 ●昭和設計作品集	●第34回青年技術者
1988 vol.69	●ホテル物語	●軟弱地盤と基礎 ●文化と伝統—東海からの報告	●設備におけるLCCとリフレッシュ ●東畑建築事務所作品集	●建物の外装リフレッシュ＊	●都心居住	●中国地方の展望とひろしまのまちなみ	●21世紀への照明＊	●制振＊	●超高層住宅を考える	●集合住宅のリフレッシュ＊ ●大阪府営善	●第35回青年技術者 ●800号記念＊	●讀賣テレビ
1989 vol.70	●夢をのせる輸送設備	●リゾート事情 ●竹中工務店創立90周年記念	●色の復権 ●東海の新建築と伝統技術＊	●省力化のための材料・工法	●まちづくりと法	●博覧会とまちづくり	●都市環境創造と設備I	●建築とアート	●構造の省力化 ●鹿島建設大阪支店建築設計部作品集	●都市環境創造と設備II ●ユーザー参加のハウジング	●第36回青年技術者	●最近の博覧会パビリオン
1990 vol.71	●商品化住宅のデザイン＊	●ニュータウン・ルネサンス	●東海の都市景観 ●佐賀市文化会館＊	●スケール感	●プレハブ住宅技術の現在と未来	●国際花と緑の博覧会	●建築家のための設備知識—中規模オフィスビルによるケーススタディー	●高強度化—設計の多様化をめざして—＊	●やわらかな住宅管理・ユーザーの役割	●都市のナイス・プレイス ●兵庫県営繕の歩み	●第37回青年技術者 ●和歌山県の展望と景観＊	●高級感—建物の顔：感性の時代を迎えての外装材
1991 vol.72	●新しい都市空間づくり—I—	●オフィス・プレジャー ●新しい都市空間づくり—II— ●建築の風景	●東海支部復活30周年記念	●大阪東京海上ビルディング	●今、京都 ●建築家のための設備知識—複合商業ビルによるケーススタディー	●建築と土木 ●毎日放送本社ビル ●近畿地方建設局営繕部	●一般号＊	●建築をめぐるトラブルとその解決 ●建設現場のイメージアップ作戦	●空間のアイデンティティ ●きんでん写真集 ●大建設計40周年	●自治体住宅政策への提言 ●大林組創業100年記念	●建築と土木—構造技術の世界— ●第38回青年技術者	●スリムでタフなコンクリート ●21世紀の住まいを考えるシンポジウム
1992 vol.73	●夢物語—人がかわる、まちがかわる—	●こだわりのインテリア ●近畿の郵政建築15年の歩み	●建築とデザイン—東海支部—＊	●建築家のための設備知識—集合高層住宅の設備システム—	●地球環境時代の建築	●街創り、住まい創り—住宅・都市整備公団関西支社10周年—	●木構造を使ってみませんか—集成材による構造—＊	●接着—建築分野への限りなき可能性	●中国地方の町並みと建築家の「語り、夢、作品」＊	●屋台—仮設の魅力に学ぶ— ●ハウジングのメインストリームを探る	●いま建築教育に何が期待されているか	●京のかたちと色
1993 vol.74	●第39回青年技術者 ●東畑建築事務所創立60周年記念作品集	●大阪府営繕	●東海の美術館・博物館	●市民劇場の舞台設備	●環境—限りある自然と建築とのかかわり	●都市のスカイライン	●映画の中のインテリア ●けいはんなプラザ・住友ホール	●建築の再生—構造技術の役割— ●大阪市営繕	●国際的パートナーシップの可能性	●福祉のまちづくり	●都市型住宅再考	●第40回青年技術者 ●環境—人にやさしい空間創造をめざして
1994 vol.75	●コピー文化の新時代 ●広島の街創りアジア競技大会	●九州のインスタレーションと貌	●伊勢・神宮式年遷宮と神宮界隈＊	●建築のエネルギーシステム	●明日に向かって—会員作品＊	●いま、医療施設は	●住空間における居どころへの視点	●まちなかの看板 ●竹中工務店の集合住宅	●水と建築 ●日本建築総合試験所	●建築設備のCGシミュレーション ●村野、森建築事務所	●構造美—建築の中の美 ●集合住宅団地リニューアル	●第41回青年技術者 ●関西国際空港
1995 vol.76	●光がつくる風合の世界＊	●音—騒音から操音/創音へ	●飛騨・美濃—まちの活性化と地方文化＊	●トイレから見た都市文化	●トイレ空間	●接合 ●コスモタワー	●ユニバーサルデザインとは	●私の空間作法—会員作品	●新しい「都市・建築」の視点＊	●建築構造と社会の接点 ●日建設計＊	●ライフラインと建築設備＊	●第42回青年技術者 ●滋賀県建築課
1996 vol.77	●阪神大震災から学ぶ＊	●大阪府住宅供給公社創立30周年記念＊	●遠江—その地方振興と文化＊	●立体駐車場設備 ●大建設計	●災害！非常時に生きる法体系 ●OAPタワーズ	●いま、プールがおもしろい	●住まいの未来像	●マルチメディアがつくる世界	●キーコンセプトの新時代	●最新の大規模スポーツ競技施設の設備	●私の空間作法'96 ●九州の元気 ●りんくうの3作品	●第43回青年技術者 ●近畿地建営繕部
1997 vol.78	●建築のロングライフ化をめざして	●鉄ものがたり＊	●東海支部会員作品 ●金沢・倭建—風土・文化とまちなみ・建築＊	●創立80周年記念/建築と私と社会—80人の眼—＊	●木造建築物の伝統技術とその将来	●住む空間の復興—法・制度の運用と新たな展開へ— ●住都公団関西支社	●素材の不思議 ●大阪ドーム	●新エネルギー ●住宅・都市整備公団改革への提言	●クロスワード都市OSAKA＊	●モザイク都市の住むかたち ●昭和設計40周年	●私の空間作法—会員作品—	●第44回青年技術者 ●京都駅ビル
1998 vol.79	●新しいまちづくりの予感 ●東畑建築事務所創立65周年	●Concrete ●九州とわたし、そして建築	●東海支部会員作品 ●信州—諏訪とその周辺—	●街並みの演出—最近の外構材料	●生活環境の安全・安心	●地球環境保全と建築	●心と体を元気にするインテリア	●建築設備—ビルメンテナンスの立場から	●建築への証言'98—21世紀に向けて	●ゆれをとめる—たえる技術からかわす技術へ	●私の空間作法 ●2001年の医療施設	●第45回青年技術者 ●駅とともに歩んだJR西日本の12年
1999 vol.80	●“らしさ”のデザイン ●建築を綾どる小粋なモノの仕掛人	●大阪市都市整備局	●東海支部会員作品'99 ●北信濃—街並み修景と地域文化の再構築	●都市のパブリック	●関西建築界の流れと東畑謙三の足跡をたどる	●大阪城天守閣平成の大改修	●改正建築基準法—まちづくり・すまいづくりへの展開—	●私の目でみた環境問題	●アーバンインテリア—都市空間としてのインテリア	●木とともに	●私の空間作法	●第46回青年技術者
2000 vol.81	●21世紀のデザインの動向を見る ●安井建築設計事務所創業75周年	●中国支部—しまなみ海道と中国地方の街づくり—	●東海支部会員作品2000 ●越中・富山—地域文化の振興と新たな施設づくりの流れ	●こころを癒す環境デザイン	●測る—測定方法と測定結果が意味するもの—	●スケルトン＆インフィル	●改正建築基準法—パートII—	●100年後へのメッセージ ●日建設計創業100周年	●来世紀に引き継ぐ—わざ、もの、こころ—＊	●時間	●私の空間作法—会員作品— ●21世紀の高齢者の居住環境	●第47回青年技術者

＊は欠号

建築と社会 11 2001

ARCHITECTURE AND SOCIETY
JOURNAL OF THE ARCHITECTURAL ASSOCIATION OF JAPAN

1917年創刊　第82集／通巻956号

今月の表紙

デザイン／笹村欽也、今垣内千恵
建築写真／河合止揚

●大阪中央郵便局

設　計／逓信省（吉田鉄郎）
施　工／清水組
竣　工／昭和14年
所在地／大阪市北区梅田３丁目

●一見地味にも見えるこの作品は、インターナショナルスタイルのお手本とされ、その完璧なプロポーションとデテールは、見る者の力量が問われているようで、緊張する。雑踏する駅前にあって、永年にわたり抑えとしてあるこの名作の存在は大きい。（笹村欽也）

■特集予告

12月号／第48回青年技術者 NHK大阪新放送会館
１月号／国土交通省近畿地方整備局
２月号／循環型社会をめざして ―再生…リサイクル

編集委員会（平成13年度）

■副会長
佐野　吉彦
奥謝野　久
■編集理事
井上　豊
内田　直樹
岡田　聿之
小島　雄
竹中　統一
畠山　祐治
広原　盛明
松村　慶三
◎宮田　照久
山田　修
■特集小委員会
□計画分科会
★計画系
伊縫　憲幸
梅田　善愛
小浦　久子
鈴木　克彦
田中　直人
紅谷　昇平
細田　浩史
松田奈緒子
松本　正行
吉村　英祐
★建築計画系
江副　敏史
※菅野　忠司
小林　優子
児玉　敬志
佐藤不二男
迫　淳海
桜井　則雄
笹村　欽也
塚本　史郎
所　千夏
野田　隆史
服部　光宏
★インテリア・住宅系
石川　佳子
加藤　力
北浦かほる
小梶　吉隆
佐藤　勝紀
田中　浩介
高野　直樹
※西田　和子
ペリー史子
本山　仁
□構造分科会
大氏　正嗣
金田　興熙
※木下　隆嗣
佐治　明志
白沢　吉衛
住田　隆二
田中　剛
田渕　勝道
竹内　秀紀
松村　和夫
向井　洋一
吉川　真次
□設備分科会
梶井　宏修
河井　康人
河津　隆之
※近藤　国夫
近藤　正一
田ノ畑好幸
西岡　道雄
桝井　貴廣
村上幸三郎
谷津　和久
山根　敏和
□施工材料分科会
植田　実
小椎八重猛
竹中　秀文
※太刀川丈爾
能美　敏男
増田　信久
吉田　正友
□法令分科会
伊勢　照男
薄木　三男
衣笠　春幸
黒木　省二
※中島　和也
森下　嘉弘
■作品作風小委員会
△赤木　隆
浅尾　宏
朝倉　一晃
居内　章夫
井上　雅祐
川上比奈子
倉渕奈千子
寺岡　宏治
中村　文紀
林　孝司
前川　治彦
増田　敬彦
増田　俊哉
山田　俊紀
■会員企画小委員会
稲木　裕子
大谷由紀子
河崎　敦子
清水　麗子
△高岡　伸一
高田　光雄
辰巳　清一
塚口　明洋
辻川ひとみ
福田　瑞穂
■広告企画小委員会
大迎　敏樹
小幡　義明
小山　昭
斉藤　治久
田渕　博昭
千葉　耕作
△林　一彦
平松　勉
古畑　健一
前田　衛
渡邊　浩文

◎委員長　△副委員長　※幹事

印　刷　２００１年10月25日
発　行　２００１年11月１日
発行人　社団法人日本建築協会
発行所　社団法人日本建築協会
　　大阪市北区梅田1-1-3-2100
　　電　話　06-6348-0635
　　振替口座　00910-9-39975
印刷所　青葉印刷株式会社
　　日本データネット株式会社
定　価　1200円〔本体価格1143円〕

CONTENTS

特集●　私の空間作法―会員作品―

四條畷の住宅●阿久津友嗣 …… 18
高石の家●岡崎善久 …… 19
U-HOUSE●森村政悦 …… 20
御所大正郵便局●矢部達也 …… 21
グループホームかのん●歌　一洋 …… 22
満濃池近くの家●新居照和＆ヴァサンティ …… 23
メルクール四ツ橋●吉村篤一 …… 24
神宗本店改装●木原千利 …… 25
1st Avenir●田中啓文 …… 26
今津(株)本社ビル●岩下博美・浜田浩志・小島富士夫 …… 27
香々美の家●貴志雅樹 …… 28
KA邸●前川治彦 …… 29
須磨の家(堀口邸)●塚口明洋 …… 30
ケアハウス秀東館●村重保則 …… 31
三田・狭間が丘の家●小南一郎 …… 32
灘の家●上谷重男 …… 33
滝本整形外科●池上　明 …… 34
神戸・光の回廊(旧居留地エリア)●村上幸三郎 …… 35

会告　2001建築関係団体合同忘年懇親会．2002建築関係14団体合同新年交礼会．第47回工高生デザインコンクール入選者発表．話題建築を聞く㉜NHK大阪新放送会館・大阪歴史博物館．兵庫県立新美術館「芸術の館（仮称）」見学会．まちなみ見学会⑥滋賀・五個荘町．読者と織りなす“たて糸よこ糸” …… 1

作品作風　国際障害者交流センター“ビッグ・アイ”(国連・障害者の十年記念施設) …… 6
奈良県立万葉文化館 …… 8
徳島県警察学校 …… 10
大阪明治生命館ランド　アクシス　タワー …… 12

gallery　建築と教育（遠藤精一）●居内章夫 …… 14

建築の眼　プレハブ住宅再考●本多昭一　衝撃の世界貿易センタービル●坂　雅勝
BUILDING FOR THE YEAR 2000●上田信也　健康住宅●木村宗光 …… 16

REPORT　空間性能による精神の可変性●藤井　明 …… 36

REPORT　奈良県立万葉文化館見学会―時空を超えて、万葉の故郷へ誘う―●小笹光彦 …… 37

法令コーナー　新たな「神戸市住宅基本計画（2001―2010）」の策定●中原　信 …… 38

構造の頁　住宅性能評価の現状●上田弘樹／小柳義雄 …… 40

設備の頁　置換換気・成層空調方式●村田敏夫 …… 42

information　第3回村野藤吾建築設計図展．大阪都市景観建築賞表彰式．「色」―科学と芸術の出会い―．桃山学院大学公開講座．「住まいの情報発信局」開設．友田多恵子展．DESIGN NOW, AUSTRIA．助成顕彰事業の公募．札幌国際デザイン賞作品公募．INAXデザインコンテスト．「建築100人×100冊展」作品募集．「Asia Du Pont Antron Design Award」最優秀賞を日本初受賞．柴田正己氏、名誉博士に！ …… 44

追悼　日本建築協会前副会長・岡本行善氏を偲ぶ●堯天義久 …… 46

月間の動き　平成13年９月分 …… 48

全景



ホール内観（車椅子300席）

作品
作風

設計・監理■
国土交通省近畿地方整備局営繕部
日建設計

設計監修（バリアフリー）■
摂南大学　田中直人教授

施工■
三菱・森本特定建設工事共同企業体
電気設備工事：（通信）北陸電気工事（電力）弘電社
空調設備工事：大氣社　　衛生設備工事：大成温調

国際障害者交流センター“ビッグ・アイ”（国連・障害者の十年記念施設）

本施設は障害者の「完全参加と平等」を目指して、誰もが利用し易い施設として建設された。

直角直行の平面と徹底した低層の断面とし、メインフロアである１階にホールや研修室など全ての主要諸室を集約して、分かり易く使い易い構成とした。宿泊室は２・３階に中庭を介して他の諸室と離して配置し、眺望の良い静かな環境を確保した。

建物のどこからでも直接、外部のバルコニーや広場に水平移動で避難出来る安全な施設とした。

ホールは最大300席の車椅子が入れる今までに無いバリアフリーの多目的ホールとし、館内全体に異なる種類や程度の障害に配慮した諸設備を設けて、誰もが利用出来る“一歩進んだバリアフリー”を目指した。

計画初期より、障害者・専門家の参画による開かれた設計体制で始まり、基本・実施設計段階でのヒアリング・机上検討に加え、施工段階では原寸モックアップを用いた障害者自身による検証実験でさらに踏み込んだ検討を行った。また、オープン後も使い勝手に関するアンケート等のフォローを予定しており、より使い易いユニバーサルデザインを一貫して追求して行く。

（遠松展弘・塩井保則／日建設計）



所 在 地 ―― 大阪府堺市茶山台1-4
敷地面積 ―― 7,959㎡
建築面積 ―― 4,918㎡
延床面積 ――11,917㎡
構造規模 ――RC、一部S、3F、B1F、P1
工　　期 ――1998年12月～2001年3月
最 寄 駅 ――泉北高速鉄道・泉ヶ丘駅
撮　　影 ――エスエス大阪





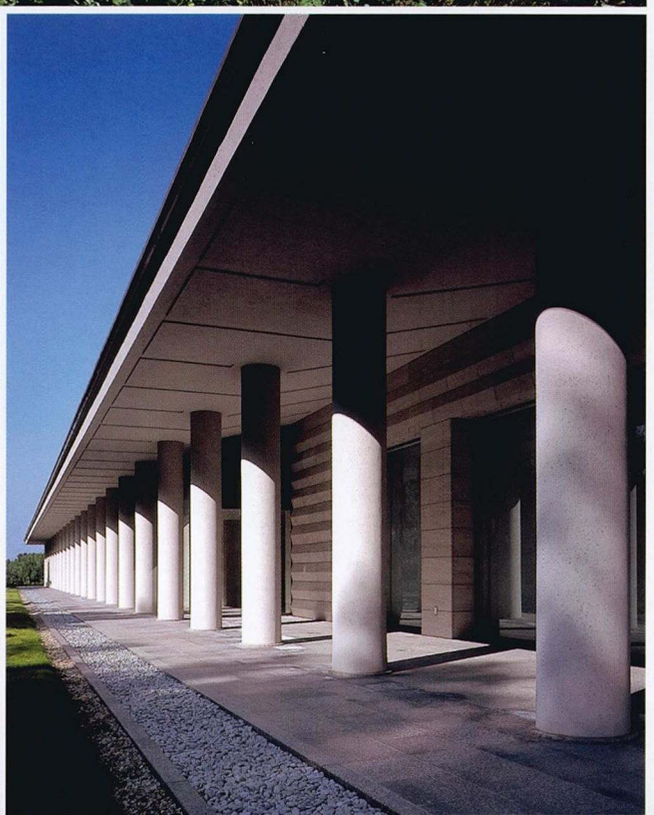
客室
浴室
2Fホール
客室棟











作品風作

設計・監理■
奈良県万葉ミュージアム建設室・安井建築設計事務所

施工■
竹中・森本・村本・仲川・藤井特定建設工事共同企業体

奈良県立万葉文化館

本施設は、万葉集を初めとする我国の古代文化に関する総合的研究機能をもつ中核的文化施設として、さらに地域の活性化を図る文化観光拠点として、万葉のふるさと明日香村に計画されたものである。建設地周辺には、飛鳥寺や、酒船石など文化遺跡が点在し、近接して棚田や畑等ののどかな里山風景が広がり、甘樫の丘や大和三山など古えより変わらない風景を眺望できる。ここでは、“万葉”というテーマ性をいかに表現し、かつ万葉集ゆかりの歴史的風土が多く残る明日香村の風景に連る計画とするかが大きな課題であった。
建物は、富本銭を鋳造した炉跡群を復元展示する中庭を間にはさみ管理研究棟と展示棟の２棟構成とし、その間をブリッジで繋いだ。管理研究棟１階は展示導入部のエントランスを中心にカフェ、ショップ、図書情報室を配し、地下に万葉古代学研究所を設けている。展示棟１階は間仕切り壁の移動により多様な空間を演出できる日本画展示室や、多目的利用を可能とした企画展示室を設け、地下には広く万葉の世界を紹介する一般展示室と、出土した遺構を展示する特別展示室を配し、各々機能特化を図った。
外観の特徴として、妻面に大きな棟持ち柱を設け、また壁面には校倉風のディテールを施すなど、古代建築のもつ素朴な力強さを表現するように努めた。ロビー空間から連続する四季のうつろいを感じさせる庭園は、ひと時の時間の流れを伝える背景となり人々を魅了する展示空間となればと考えた。（永島敏郎／安井建築設計事務所）



所 在 地 —— 奈良県高市郡明日香村大字飛鳥10
敷地面積 —— 38,363.93㎡
建築面積 —— 6,223.71㎡
延床面積 —— 11,090.47㎡
構造規模 —— SRC・一部S、2F、B1F
工　　期 —— 1998年10月～2001年３月
最 寄 駅 —— 近鉄・橿原神宮前駅
撮　　影 —— 名執一雄

左頁上より：北東より望む　左下：東側アプローチ　右下：西側列柱廊
右頁上より：北側展望ロビー、日本画展示室、企画展示室、一般展示室













所 在 地 ——徳島県徳島市論田町中開51-1
敷地面積 ——30,401㎡
建築面積 —— 1,902㎡
延床面積 —— 3,117㎡
構造規模 ——RC一3階
工　　期 ——2000年3月～2001年3月
撮　　影 ——上諸尚美



作品

企画・設計監修■
国土交通省四国地方整備局営繕部

基本設計・実施設計■
東畑建築事務所

工事監理■
国土交通省四国地方整備局営繕部
東畑建築事務所

施工■
佐藤工業四国支店

徳島県警察学校

徳島市南部に位置する当敷地は、警察学校と機動隊が同居する広大な敷地で、平成８年に学生寮が建てられるまで、各時代の社会情勢や学生数の変化に応えた、様々な付属施設の増改築が行われ、全体としてまとまりの欠けた施設群となっていた。

本工事では、警察官としての基礎的な教養訓練を受けるための「本館」と、柔剣道の訓練場である「道場」を改築している。これまでの反省を踏まえ、敷地全体で統一感と一体感のある施設群を目指しマスタープランを構築、将来に亘り支障をきたさぬよう、壁面線の統一や施設動線の集約化などのシステムを計画に盛り込んでいる。

まず既存学生寮との間に中庭をつくり込み、その廻りに各施設をつなぐ回廊を配置、学生たちの生活の中心として機能し、規律正しい生活の中に潤いと安らぎを感じ取ってもらえるような、施設の核となる「場」を創り出している。県警の歴史や活動を来校者に紹介する資料展示コーナーをこの中庭を取り囲むように配置、外部の広がりを取り込んだ透明感と開放感のある空間を確保している。

また各施設では、警察官としての教養訓練を快適に、効率よく学べるよう、光と風を建物内に積極的に取り込み、清々しくて気持ちの良い学習・訓練環境を創り出している。各階に、学生交流スペースやアメニティスペースを確保するなど、学生が、語らいながら楽しく学べ、豊かな人材を育成する学校を目指している。

（笹村欽也/東畑建築事務所）





左頁上より：本館・南東側外観、本館・アプローチ
中庭より道場・本館を望む
右頁上より：１階・資料室より本館を望む、本館・正面外観
１階・資料室、１階・廊下吹抜け廻り







作品
作風

設計■
竹中工務店

監理■
エヌ・ティ・ティ ファシリティーズ
竹中工務店

施工■
竹中・不動・奥村・錢高・大末・大鉄建設共同企業体

大阪明治生命館
ランド アクシス タワー

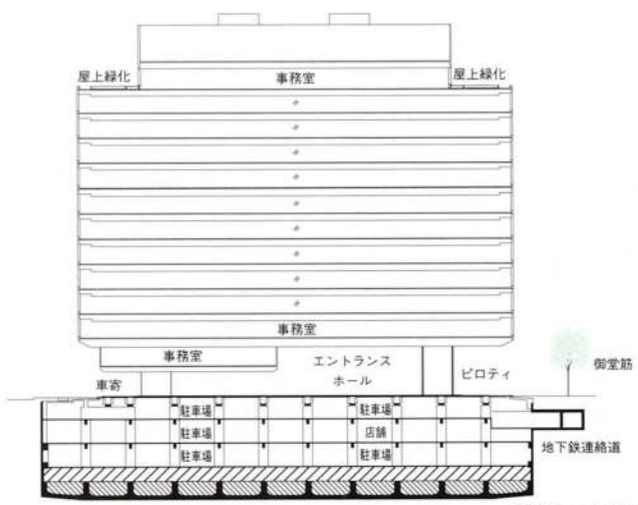
大阪の活性化のために、「御堂筋」の再生が期待されています。とりわけ淀屋橋、本町間は、新時代の幕開けにあって古いイメージの払拭が望まれます。

当館は平成７年に施行された「御堂筋のまちなみ誘導に関する指導要綱」の適用を受けた御堂筋西側街区における初めての建物です。昭和40年に竣工した旧館の建替工事でしたが、環境への配慮から旧地下躯体の大部分を再利用し、また地下１階に免震装置を設置して御堂筋初の免震構造の建物とするなど、新しい試みを多く取り入れています。

計画では御堂筋に新しい息吹を生み出すことをテーマとしました。外装のフロアとフロアをつなぐ厚く精緻なガラス板とリズミカルな影を落とすアルミフレームは、表情豊かで深みのある外観を創り出しました。ガラスに映る空や雲はビジネス街を行き交う人々に安らぎを与えています。建物の足元は２層吹抜けのエントランスホール、ピロティ、公開空地として東西の街路を一体化し、街に広がりとゆとりを生み出せたと思います。

この建物の完成が、シンボルロード「御堂筋」の新たな景観形成とまちなみづくりのきっかけとなることを期待します。

（村川洋一／竹中工務店）



断面図　1：1200

所 在 地 ―― 大阪市中央区伏見町4-1-1
敷地面積 ―― 3,023.66㎡
建築面積 ―― 2,112.96㎡
延床面積 ―― 33,852.94㎡
構造規模 ―― SRC、RC、S、B3F、14F、PH1F
工　　期 ―― 1999年２月～2001年８月
最 寄 駅 ―― 大阪市営地下鉄御堂筋線・淀屋橋駅
撮　　影 ―― 野竹　満、古川泰造（右頁下）

左頁：御堂筋側全景
右頁上より、基準階事務室、エントランスホール、南面ピロティ





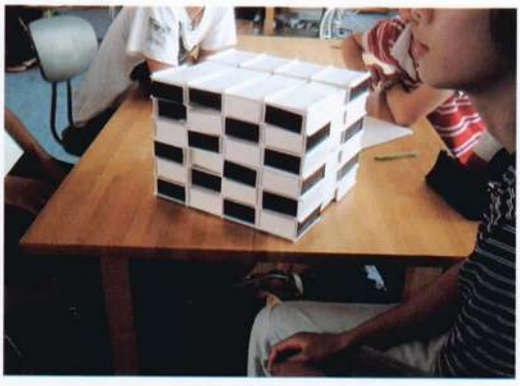


gallery

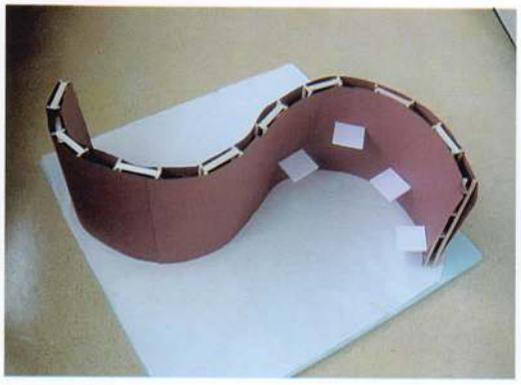
建築と教育

前橋工科大学教授
遠藤精一







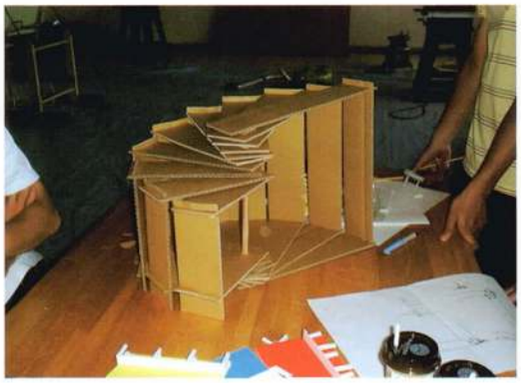


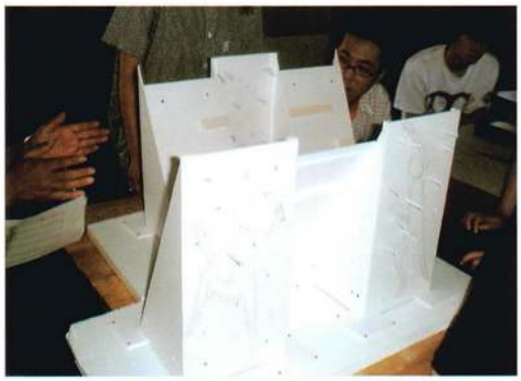

現在の日本は、建築を造るための教育に多くの努力を積み重ねた結果、世界でも稀な技術大国となっている。
しかし周囲を見回してみると生活環境はGDP世界第2位を誇る国の環境としては誠にお寒い限りである事は、誰もが気づいている。
我々建築を造る側としては一生懸命、良い建物を造れば必ず使う側の理解が得られて、結果として望ましい環境が得られるはずであった。
しかしそうはならず、むしろ地球環境の問題にまで広がった建築廃棄物の山は我々の行く手に警鐘を鳴らしている。
事実、新聞雑誌等一般のメディアはことごとく反建築の方向に向いている。
箱物行政の行き詰まり、公共投資はもう沢山だ、等枚挙にいとまが無い。
我々は建築を造る時、どうすれば良い建築になるかよく知っている。
しかしその事を使う側の人々にきちんと伝える努力を充分してきただろうか。
これからの建築教育は、造る側のみの価値観だけでなく、使う側の人々にも充分理解をして貰える環境造りを心がける必要がある。
分かり易い建築とは、自分達が馴染みやすくそして環境の良さをみんなが共有出来る家であることに他ならない。
分かり易さを身につけるための訓練として、前橋工科大学ではワークショップの講座を開いている。自分達で考えた物を、自分達で造り、そして自分達で使いながらメンテナンスを行う。
一年間を通してキャンパス内に展示し市民の皆さんに親しんで頂きながら、環境造りの理解を得るための実験が始まった。

遠藤精一（えんどう せいいち）

1940　東京都四谷生まれ
1964　早稲田大学理工学部建築学科卒業
　　（卒業時　村野賞受賞）
1966　早稲田大学大学院理工学部
　　建築学科建築計画専修　修了
　　(株)槙都市・建築総合計画事務所入社
1970　(株)エンドウ総合装備入社　社長就任
1974　(有)エンドウプランニング一級建築士事務所設立　社長就任
1976　早稲田大学専門学校設計講師就任
1990　(株)エンドウ総合装備本社としてハイパードーム・Eを建設　会長就任
1992　渡辺達夫さんを中心にしてハイパードーム・Eの会を設立
　　ハイパードーム・Eにおいて文化活動を開始
　　年に春と秋の2回、音楽、朗読、講演等を行い現在第21回目を迎えようとしている。
1997　前橋市立前橋工科大学教授就任
　　現在に至る

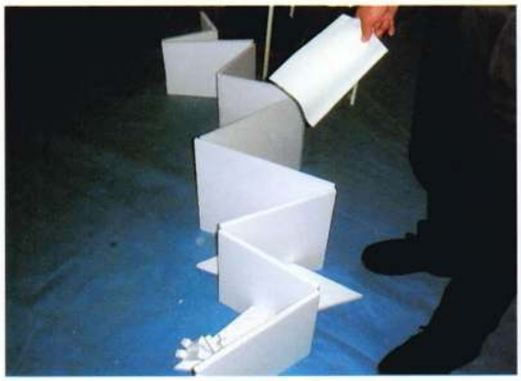
撮　影—遠藤精一
企画編集—居内章夫（作品作風小委員会）












ARCHITECT's EYE

プレハブ住宅再考

本多　昭一

最近「プレハブ住宅」という文字を見かけなくなった。住宅メーカーが使わないようにしているためであろう。1960年代には、この名称は誇らしく使われたのであるが、施工不良による欠陥問題が度々起きたことや、低品質の仮設校舎などのイメージと重なり易いことから嫌われたらしい。

しかし、そうであったとしても、プレハブという用語には何の罪もない。プレハブpre-fabricate することは建築にとってプラスの面が大きいのである。今更言うまでもないかも知れないが、建築生産労働の困難や危険の多くは不安定な現場の屋外作業に起因しているから、プレハブ化によって改善できる。また、建築物の品質問題の大部分は製造過程でのチェック不足から起きているのであるから、これもプレハブ化で大幅に改善できるはずである。現場作業も、大組織による研究と管理によって不断に改善でき、総合的に高品質の建築（住宅）が生産・供給できるはずである。

しかるに、いまだにメーカーの住宅の欠陥問題があちこちで起きているのは何故なのか。プレハブという用語忌避よりも先決課題があるのではないかと考える昨今である。

京都府立大学人間環境学部環境デザイン学科教授

衝撃の世界貿易センタービル

坂　　雅勝

９月11日の夜、帰宅途中の電車内で、旅客機がビルに突っ込んだという乗客の会話に、映画の話でもしているのかと思ってテレビを見、ハイジャック機のニューヨーク世界貿易センタービルへの２度にわたる激突、それに続く僅か１､２時間後のビル崩壊の映像に、のけぞるほどの衝撃を受けたが、このことは世界中で、また同時に見ていた者全てに共通すると思う。

ビル崩壊の原因は、鉄骨の破断・その後の高熱による耐力低下や特別な構法が災いしたとか、いろいろと言われている。原因の究明はいずれ行われると思うが、アメリカの経済力のシンボル、ニューヨークのランドマークが我々の眼前で崩れ去ったこと、航空機を利用した自爆テロという誰も予想のつかない攻撃には、建築構法も防災設備もまったく無力であったことは、計り知れない衝撃と喪失感を与えた。

それにも増して、ハイジャック機の乗客・乗組員、高層階に取り残された人々のそのときの絶望を思えば言葉は空しく思える。

この不条理な出来事に遭遇し、亡くなられた方々のご冥福を心からお祈りする。

大阪市住宅局理事

BUILDING FOR THE YEAR 2000

上田　信也

ミノル・ヤマサキが、世界貿易センタービルの設計に忙殺されていた頃、ナタニエル・オウイングは首都ワシントンのペンシルベニアアベニューの整備に没頭していた。

彼等を含む当時のアメリカ建築界の大御所を特集し、21世紀の建築の在り方を予測したのは、タイム誌の1968年８月２日号であった。ジャーナリズムは勿論のこと、一般市民も建築には我国よりはるかに関心が強い米国に於て、当時、食品産業に次いでGDP比10%の地位をまだ占めていた建設分野を、生活と産業の両面から市民に啓蒙するのは、ジャーナリズムにとって自然なことであった。そこでは、個々の建物の美醜を論ずるのではなく、ようやく意識され始めた環境―ENVIRONMENTという見地から、建築家による“ENVIRONMENT PLANNING”が、かっての鉄道や高速道路に匹敵する魅力と必要性を持つことをオウイングをして語らしめた。SOM創始者の一人である彼は、寔に一つの計画を巡っては、市民を味方に、不動産会社に翻意を、銀行に決断を、行政に支援を夫々迫り、良案を進める政治的能力に長けていた。

レバープラザーズビルやアルコアビルに代表される建築と都市の在り方の探求の後、20世紀のランファンたらぬとペンシルベニアアベニューの整備を始め、都市的観点に立つべき建築のために、空間・時間に加え政治という第５次元を導入した彼に、21世紀初頭の今、私は彼にその奥義の伝授を再び乞いたい。

大建設計取締役京都事務所長

健康住宅

木村　宗光

何時頃からこの呼称がはじまったのか、10年程前であるが、この呼名は「健康になる住宅」という意味ではない。（この点でこの呼称はいささか誤解を与える嫌いがあり、住宅にこの様な名前を付けることにはためらいがあって余り使わない）

この名前の名付け親かもしれないかもしれない研究会が発足したのは同じ頃である。現在ではNPOとなり、幅広い活動をしている。今まさにその時代の到来である。この研究会では住宅とそこに住む人との係わり合いを健康と言う視点で捉え、今の住宅が健康に問題が無いか、今後どの様にあるべきかを様々な角度から調査、研究を行っている。

確かに今日の住宅は新しい工法や材料の出現により耐震性、耐久性、省エネルギー性など居住性能は飛躍的に向上したが、反面新たな問題に直面している。その一つが住宅室内の空気質である。建物の断熱性や気密性が向上したため、建材から放出されるホルムアルデヒドに悩まされている。又、内装材などの接着剤や塗料からでる溶剤も人体に良くない事が分かってきた。この様なことから、住宅の作り方が少しずつ変わろうとしている。天然素材に近い物を使おうとし始めているのである。その多くは我々が過去に長い間使っていたものである。その持っている性質を調べてみると気候や風土に適し、人間に優しい素材であることを改めて知るのである。

大和ハウス工業㈱取締役

建築の眼



私の空間作法

日本建築協会■会員作品特集



本稿と秋酣が重なってやってきます。今年も会員の力作18作品をお届けいたします。例年は住宅が多いなか、本年はバラエティーに富み、生活観のあふれた各種の建築が応募されています。この特集が会員皆様の参考になり、刺激となって、さらなる研鑽努力の契機となりますよう、念願しております。

編集委員長　宮田照久

企画　作品作風小委員会

掲載順については、作品作風小委員会の編集方針により決めさせていただいております。

木造

阿久津友嗣　阿久津友嗣事務所



西面外観



南面夕景



2階子世帯食堂

住宅を設計する際、特別な理由のない限り木造で考える。木造のよさは、軸組の架構による構成なのだと考えているので、構造部材はなるだけ「現し」にすることにしている。
しかし、そういう気持ちと現実とにはどうしても食い違いがあり、柱、梁だけでやりたいのだが、耐力壁が必要だったり、構造をすべて見せていこうすると、設備の配管が通らなかったりとなかなか思うようにいかない。
四條畷の住宅は、プレカット集成材と金物ジョイント工法の組み合せによって、通し柱の断面欠損を最小限に抑え、25本という在来木造としては異例の通し柱数を確保した。軸組計画や、精度のよい加工、品質管理上などの点においても、木造というより、鉄骨ピン構造に近い。

（阿久津友嗣）

■四條畷の住宅

所在地　大阪府四條畷市
構造設計　下山建築設計室　下山聡
施工　山中工務店
敷地面積　239.99㎡
建築面積　110.83㎡
延床面積　162.89㎡
構造規模　W、2F
竣工　2001年6月
撮影　市川かおり

街に閉したファサード

岡﨑善久　岡﨑善久建築設計事務所



東側正面外観



デッキより見る



リビングからたたみの間を見る

南海電鉄・高石駅から東へ歩いて15分のところに、新しく開発された位置に、この計画がある。建売住宅が、45戸建ち並び、雑然とした風景に『ポツン』と、この住宅が建っている。この敷地は、東西に長く、北側に建物を配し、1/3はコートや駐車スペースをとり、この南面からの採光を基本とした計画で進める事にした。一階に、浴室、夫婦寝室、おばあちゃんの部屋には、ミニキッチンを設けた。階段をのぼって、二階に上がると、大きく切り取られた壁面が目に入って来る。その切り取られた壁面から、リビングいっぱいに光を気持ちよく浴びることができる。また、大きく切り取られた壁面は２本の柱で支えた。そして、キッチンの横に、子供室を配して、学校から帰って来ると、いやでもお母さんの顔を見て部屋に入らなければならない。―家庭の関所と名づける―子供室はメゾネットとし、上階は子供の遊び場であり、寝室でもある。たたみの間は、くつろぎ、寝ころび、客間として、たたみを敷き並べただけの曖昧な空間であるが。住宅において大切な『間』である。そして、南面のデッキは３寸角で敷き並べ、空間が外部へと連続し、広がっていく。また、外部階段を作ることによって建物に入らず、コートを通ってリビングにお客を迎え入れる事が出来る場。回遊する空間である。

外観はコンクリートの箱と木造の箱を重ね合わせた混構造のファサードで表現した。この無表情なファサードは、雑然とした風景にくさびを打ち込んだようなものである。

最後にオール電化であり、電気温水器を室内にとりいれてメンテナンスをしやすくした。

（岡﨑善久）

■高石の家

所在地　大阪府高石市加茂
施　工　建築工事プロデュース
敷地面積　100.238㎡
建築面積　56.9075㎡
延床面積　137.065㎡
構造規模　S（1F）、W（2F、ロフト）、2F、ロフト
竣　工　2001年3月
撮　影　松村芳治

うつろう光

森村政悦　森村政悦建築設計事務所



外観全景

この建物は、京都の昔ながらの商業地の中にあり、店舗併用住宅として計画された。
道路に接道する間口10m、奥行き15mの敷地に対し前面を駐車スペース、奥には既存建物を残し、１階は工場と事務所を、２、３階は住居スペースを配置した。
９m×９mの平面は、６mと３mの２スパンで構成し東西方向に開かれる。東側外壁に設けられたアルミルーバーは、貫通する視覚を制御します。夕暮れになり室内に明かりが灯ると、垂直に伸びた壁面とフラットスラブのもたらす明解な架構が姿をあらわし、アルミルーバーの意識は大きく減少し、外部に対し大きく開くことになります。そしてこの建物は、機能的また景観的にも1日を通じ自然と共に時間の変化を作り出す装置でありたいと考えます。

（森村政悦）



外観夜景



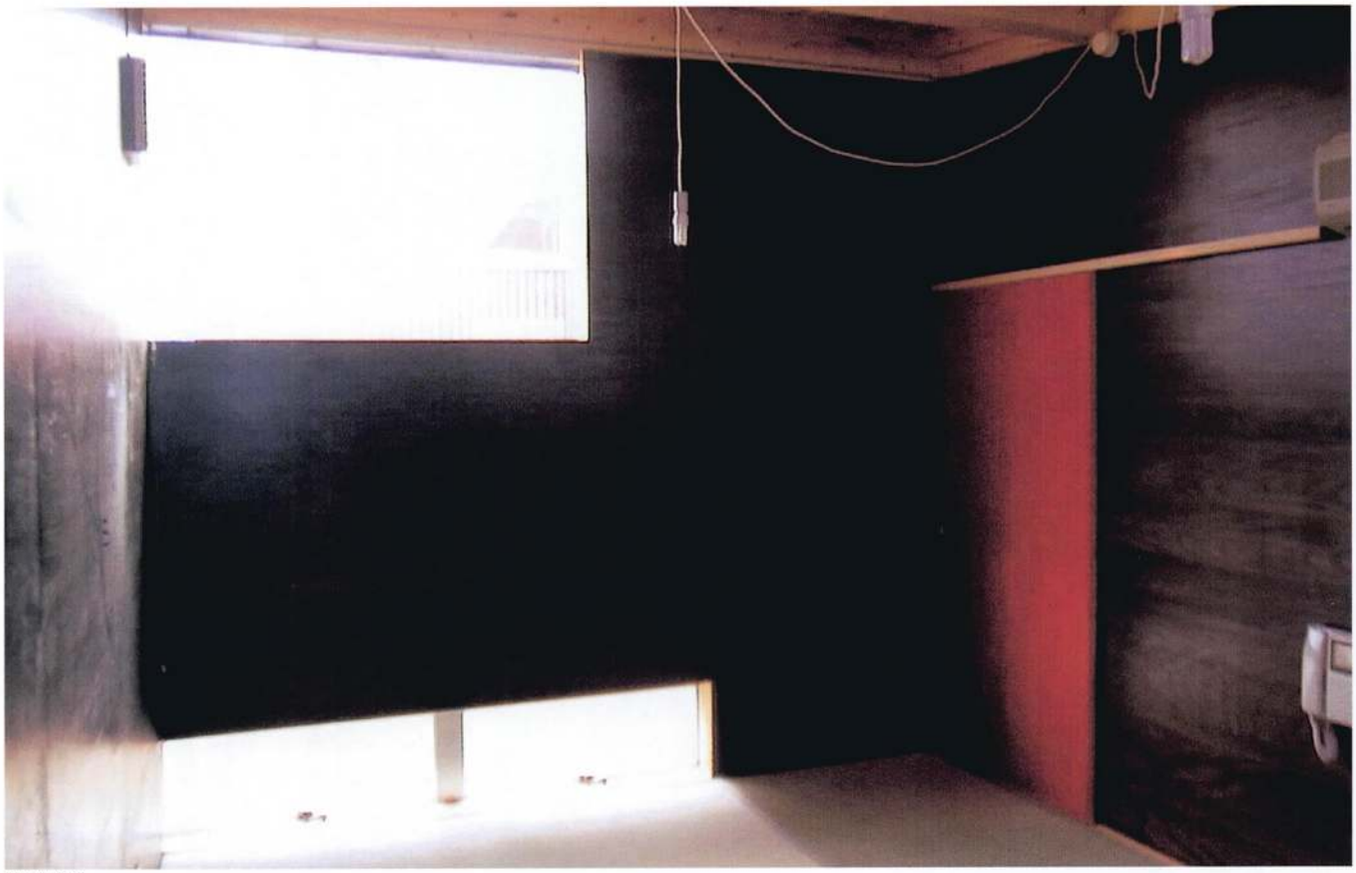
３階テラス夜景

■U-HOUSE

所 在 地　京都市中京区
施　　工　野口工務店
敷地面積　156.50㎡
建築面積　 67.07㎡
延床面積　180.82㎡
構造規模　RC、3F
竣　　工　2001年4月
撮　　影　植田三代治

家みたいな郵便局

矢部達也　矢部達也建築設計事務所



職員休憩室



お客様ルーム



となりの田圃から

市街化調整区域に建つ特定郵便局舎。

敷地形状から決まる平面の長細さを生かすこと。
お客様ルームと窓口事務室を、長手方向に分割し、動線の単純化、短縮化、スペースの有効利用を図った。

規定の面積内で不要部分をできるだけ削り落とし、お客様ルームの一角、中庭に面して、この局の中核ともいうべきコミュニティスペースを捻出した。利用客の談話、休憩、展示、インターネット体験などに供されている。

お客様ルームと窓口事務室の一体空間を規定の木造で実現するために、集成材のSE工法を採用した。天井は梁と屋根パネルをあらわし、壁、床も木質材。田園地域の小さな公共施設にふさわしいウォーミングな印象を与えることを期待した。

（矢部達也）

■御所大正郵便局

所在地	奈良県御所市櫛羅133
施工	鍛治田工務店
敷地面積	310.27㎡
建築面積	137.94㎡
延床面積	137.94㎡
構造規模	W（集成材SE工法）、1F
竣工	2001年3月
撮影	矢部達也建築設計事務所

集まって楽しい空間

歌　一洋　歌一洋建築研究所



1階共有空間は2階共有空間、3階へとつながる



ファサード右側は「みせづくり」で、閉じられたしとみ戸と濡れ縁（※）



西側ファサード。個室ベランダ床はメッシュ

かのんは密集地に建っている。路地空間を少しでも豊かにしようと玄関脇に「みせづくり」形式（徳島県南の漁村に多い）を再現した。
上部はしとみ戸、下部は折り畳み式の濡れ縁になっている。ここで近所の人たちのコミュニケーションを図る。
建物の構成は南側中央に光、風、雨を導く土の庭を設け、半内部化されたこの空間によって人も建物も呼吸ができる。内部も庭に面して3層吹抜けになり、入居者がお互いの気配を感じ、生活にうるおいを持たらしている。
各個室には全てテラスがあり、3階のテラスの床はメッシュを使用して、下階の通風、採光を考慮した。

（歌　一洋）

■グループホームかのん

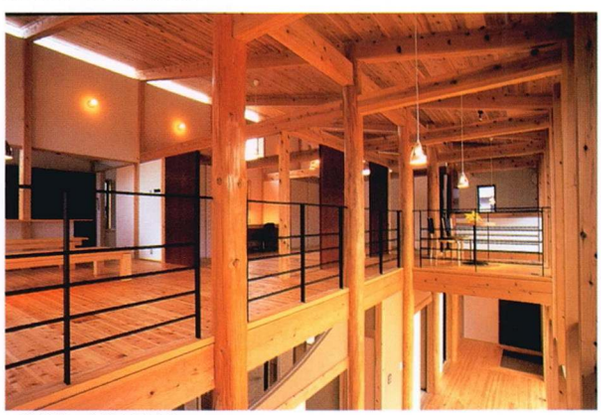
所 在 地　大阪市生野区中川東2-17-24
施　　工　大鉄建設
敷地面積　146.49㎡
建築面積　84.96㎡
延床面積　185.59㎡
構造規模　RC（1F）、W（2、3F）、3F
竣　　工　1998年12月
撮　　影　松村芳治、歌　一洋（※）

大地と結ぶ杉列柱空間

新居照和 & ヴァサンティ　新居建築研究所



食の広間から里山風景を見る



2階広間。空間を見渡す



夕景。庭から住宅内部を見る

南面する1階吹き抜け広縁と2階大広間を立体的に配置して、農家の庭と一体化する住空間を試みた。一間余りの軒の出が夏の強い日射しをさけ、冬は南から太陽の恵みをいっぱいに受ける。そして、家全体に空気が巡るように大屋根で覆った。105×210の杉通し柱と、末口210高さ6mの杉丸太柱が、一間おきに並ぶ列柱に応えるように梁を組み、地場材の力強い一体的な空間を生み出そうとした。北面の天空光を取り入れ、西面はのどかな里山が拡がる風景とつながるような大きな窓や空中デッキを配置した。

建築主はこれから、周りの里山や近隣の樹種にあわせながら前庭を樹木で囲み、植栽を楽しんでいく。

（新居照和）

■満濃池近くの家

所在地　香川県仲多度郡仲南町
施　工　神詫組
敷地面積　421.96㎡
建築面積　133.13㎡
延床面積　220.28㎡
構造規模　W、2F
工　期　2001年1月
撮　影　北田英治

アクティビティを感じる

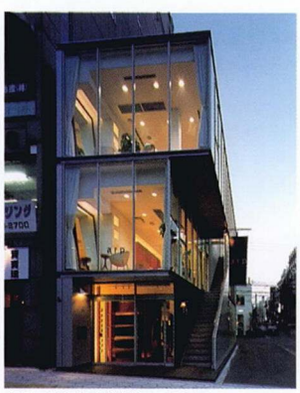
吉村篤一　吉村篤一＋建築環境研究所

この建物は、近年賑わいが増してきている北堀江に建つ3階建ての店舗ビルである。北側が長堀通、西・南側も合わせて三方が道路に面しており、多くの人が行き交っている。これと合わせて南北方向に細長い狭小敷地であるという条件の下で、辺りを行き交う人々にとってそれぞれの店舗の様子が容易に感じられ、ゆるやかに上階の店舗へ導かれていくことがテーマとなった。3枚のスラブのみで形成されたフロアをガラススクリーンで包むとともに、直進階段を西側道路に面して設けることにより、小規模なものではあるがビルを訪れた人やそこで働く人のアクティビティを感じることができるようになった。

（荒木公樹）



外観ディテール


夜景。長堀通（北側）より見る


南側より見る


昼景。長堀通（北側）より見る

■メルクール四ツ橋

所 在 地　大阪市西区北堀江
施　　工　藤木工務店
敷地面積　78.69㎡
建築面積　69.20㎡
延床面積　202.13㎡
構造規模　S、3F
竣　　工　2000年8月
撮　　影　大島勝寛

現代の空間に伝統を表現する

木原千利　木原千利設計工房



正面外観

大阪の老舗の佃煮屋さんの改装である。江戸時代より受け継ぐ手作りで究める上方の味に呼応すべく、町屋の伝統手法を利用している。

古くから町屋は間口は狭く、奥行きが長い。道に面したファサードは格子で構成され、また入り口に導く露地がある。

この店では、その町屋の露地空間を、町屋格子の内側に作りだした。

外観4層を形状の異なる錆色仕上げのステンレス格子で覆い、1階は全面開放出来る引込みの格子戸とし、その内側の床は自然石と三和土で仕上げている。石には常に水が打たれ、喧噪の街と「みせのま」との干渉帯としての露地が現れる。

季節の生け花が飾られた露地を通り、みせに導かれると、神宗所蔵の久留米屋敷の絵がはめ込まれた左官の壁、処々の飾り物、そして正面には一間半の床の間が客を迎える。この床には四季折々の飾りが工夫される。この床の間飾りに、何度も足を運んでくださる客への店主の心配りが感じられる。

この店は、お客様にゆったりとした空間の中で、日本の伝統を感じ取って欲しいというオーナーの心の表現でもある。

（木原千利、多田　雅）



店内より玄関側を見る



飾り棚

■神宗本店改装

所在地　大阪市中央区
施　工　髙島屋スペースクリエイツ
改装面積　121.75㎡
構造規模　S、4F
竣　工　2001年3月
撮　影　松村芳治

視線をつなぐ

田中啓文　田中啓文総合建築研究所



事務所アプローチ



ファサード見上げ



エントランス夜景

1階に貸事務所、2～6階に単身向け住戸、6～8階にトリプレットの2世帯住戸を配したコンプレックスである。

1階の事務所へは、建物の隙間の露地状の空間を経てアプローチする。この露地状空間は、オートロックを備えた住宅部のエントランスと動線的には区分されているが、天井いっぱいのガラススクリーンによって視覚的に一体化されており、限られた敷地の中でできる限りの豊かな共用空間を生み出すと共に、両者の融合が意図されている。夜間、光壁となる事務所のガラスブロック面は住宅部エントランスを華やいだものにし、また通りかかる人々の視線を内に引き込む効果も果たしている。

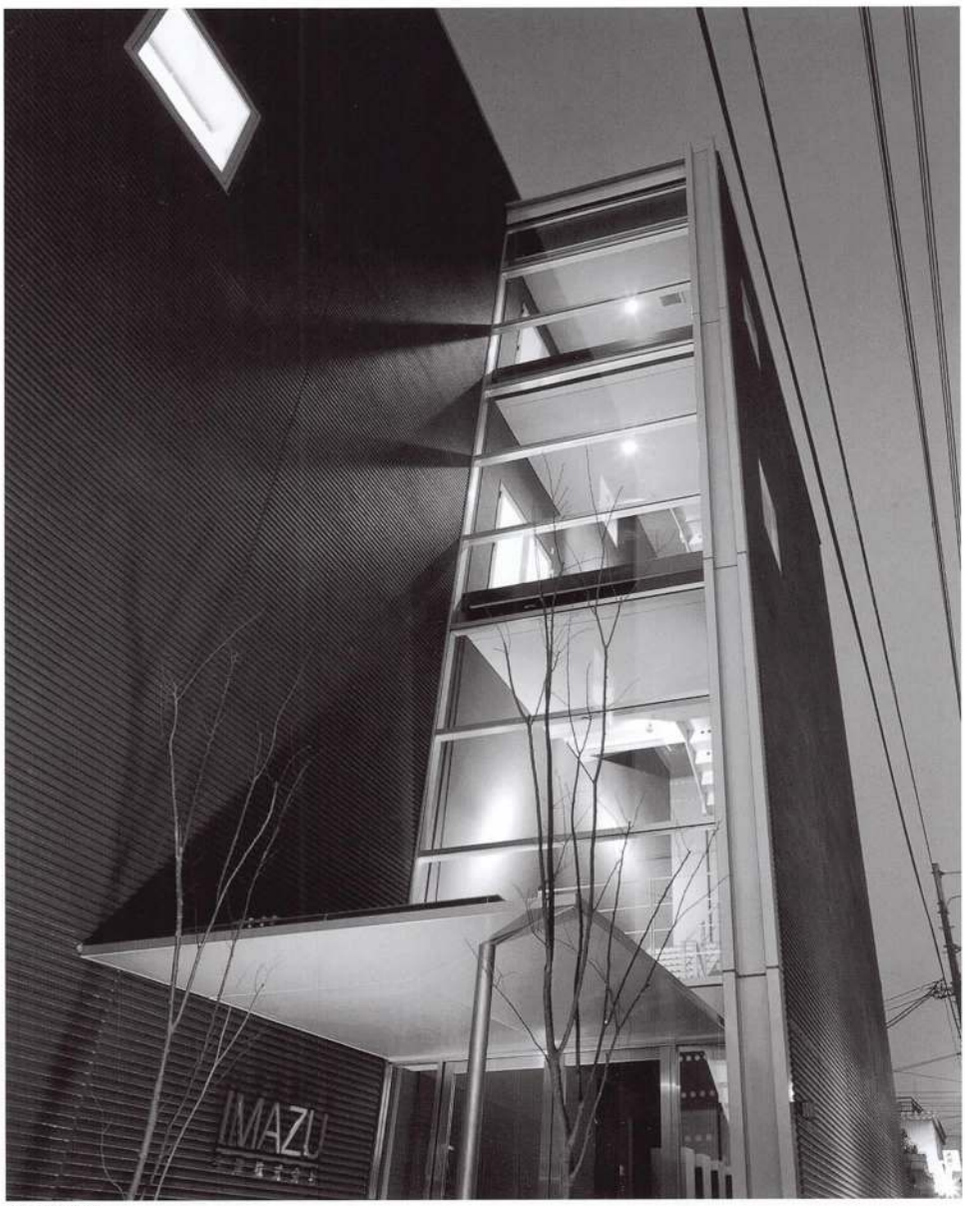
（田中啓文）

■1st Avenir

所在地　大阪府東大阪市
施　工　梶原組
敷地面積　402.32㎡
建築面積　195.02㎡
延床面積　1,101.11㎡
構造規模　RC、8F
竣　工　2001年3月
撮　影　河合止揚

喧騒から静寂へ

岩下博美・浜田浩志・小島富士夫　大林組本店一級建築士事務所



階段室（外観）


ミニ・アトリウム


階段室（内観）


エントランス

・本建物は、配送センターが密集する特別工業地区に建つ本社ビルです。
・車の騒音や排気に晒された場所において、如何にしてアメニティの高い空間を創り出すかが、計画の焦点となりました。
・ここでは執務空間を2、3階に設置する事で地上の喧騒から切離すと共に、ミニアトリウムを設け、トップライトから自然光を取入れています。
・周辺環境から守られ、静寂と光に溢れた気持ちの良い空間となりました。
・この吹抜空間には休憩コーナーを設け、上下階間での交流を含めた活発なコミュニケーションを可能にしています。
・また、1階と2、3階を結ぶ階段室は、2枚の外壁間に挿入し、交通量の多い前面道路から守ると共に、日中は自然光、夜間は間接照明により多様な表情を創出しました。
・喧騒から静寂へと至る期待感を演出する為に、踊場には絵画を設置し、単なる移動空間としてではなく、ギャラリー的空間として階段の持つ機能を拡張しています。

（小島富士夫）

■今津（株）本社ビル

所 在 地　大阪府守口市南寺方東通6-55
敷地面積　521.62㎡
建築面積　357.55㎡
延床面積　1,025.46㎡
構造規模　S、3F
竣　　工　2000年11月
撮　　影　藤　義則（エスエス大阪）

現代の民家

貴志雅樹　貴志雅樹環境企画室



東側外観



門扉側よりコートを見る



フィットネスルームを見る

岡山県の苫田郡に位置するこの住宅は、ゲストルームを備えた二世帯住宅である。

里山を背後に控えた田園地帯で、のどかな環境に囲まれているが、二つの世帯、ゲストの為の空間を外部空間て繋ぐという事と、身体の不自由な両親にコートでの屋外生活を楽しんで頂くためにあえてコート・ハウス形式をとった。

外部空間を干渉帯にすると同時に、両親と若夫婦の場の接点にはコートに開かれた大きな浴室、ゲストルームと若夫婦の場は大きな居間を設けた。

設備的には、太陽電池を組み込んだ屋根材、暖炉等、自然エネルギーを取り入れ、両親の住宅部分は、バリアフリーとして高齢者対応の器材を備えた。

（貴志雅樹）

■香々美の家

所 在 地　岡山県苫田郡
施　　工　母里建設
敷地面積　999.70㎡
建築面積　406.49㎡
延床面積　510.88㎡
構造規模　RC、一部屋根S＋W、2F
工　　期　1999年4月
撮　　影　村地省三

構く

前川治彦　前川治彦建築研究所



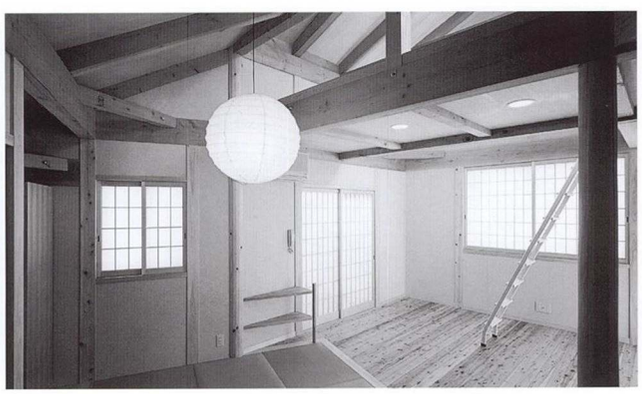
ホール

構く（か　く）：くみたてる。結んでつくる。
架構（かこう）：材を結合して作った構造物。
…以上広辞苑より

私は木の柱と梁で構く軸組工法が好きだ。
伝統工法にも繋がるそれはインテリアを開放し、庭などの外部空間へ連続させる一つの有効な術であると考えており、住宅を設計する機会があれば好んでこの工法を前提にしてきた。
そしてその構く様、つまり架構を見せることを大原則とした。
その家の組建て方を目に見えるようにし、その架構により内部空間に秩序を与えようと考えてきた。
木の架構は美しい。
柱の垂直線、そこに架けられた梁の水平線、覆われる屋根の斜線。水平と垂直の秩序、シェルターの安心感、ピンと張った緊張感。住まいの空間の寸法と、柱や梁と言った各部材の寸法とが中にいる人間にとって丁度具合良く調和している。
それらのプロポーションに美学を与えた先達の気持ちが分かるような気がする。
架構の中にいて自らも背筋が真っ直ぐとなるのはそのような伝統を無意識にも感じているからかも知れない。
（前川治彦）



アプローチ



寝室

■KA邸

所 在 地　T市
施　　工　T工務店
敷地面積　158.70㎡
建築面積　 69.97㎡
延床面積　124.52㎡
構造規模　W、2F
竣　　工　1998年3月
撮　　影　賀川憲男（KP工房）

明石大橋の見える家

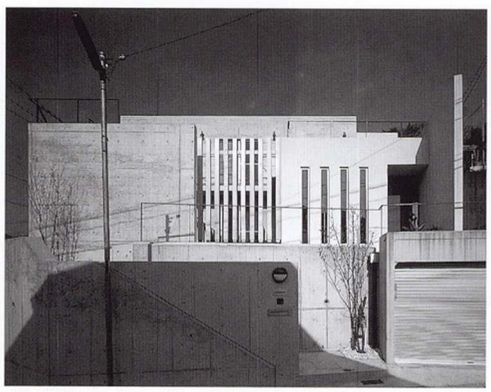
塚口明洋　塚口明洋建築研究室



エントランスホールを見る

この住宅は、小学生の男の子2人をもつ夫妻の住まいです。
アウトドアライフが好きな家族なので、地階のライトコートから１階の中庭、２階のテラスへと階段でつながる家を考えました。
１階のダイニングから天気の良い日には中庭越しに明石大橋が見えます。
夕刻から深夜にかけてのパーティーではリビング・ダイニングにつながる外部空間が大活躍します。まず夕日を見ながらテラスでのパーティーから始まり、時間とともに中庭に移動。夜がふければ、御主人自慢の地下リスニングルームに隣接するライトコートで楽しい時間を過します。

（塚口明洋、我孫子英俊）



南側外観



ダイニングより中庭を見る

■須磨の家（堀口邸）

所 在 地　兵庫県神戸市須磨区多井畑東町9番34
施　　工　昭和工務店
敷地面積　181.64㎡
建築面積　 76.96㎡
延床面積　166.37㎡
構造規模　壁式RC、２F 、B１F
竣　　工　1998年8月
撮　　影　納村達夫

自然を愉しむ空間

村重保則　村重保則現代建築設計事務所



南西よりの外観

建設地は盆地を囲む山裾に位置し、交通の便にも恵まれている。計画にあたり、緑豊かな環境の中で居住者が自然と触れ合い、共生出来る空間の実現を目指した。建物は4階建であるが1階に管理・サービス部門を集中させ、2階以上を中廊下型の居室とする明快な構成でまとめた。居室階中央部は3、4階を吹抜けにし、大きく傾斜したガラス屋根を設けて外光を採り入れると共に外部の景色、四季の変化を身近に感じられる様にした。全体のフォルムは切妻の越屋根に日本瓦葺で仕上げ、全周をコンクリートと木格子で囲って周辺景観との調和をはかった。本館に続き昨年には有料老人ホーム（39床）も増築されたが、外周の格子をリピートし建物全体に統一感、整合性をもたせた。

（村重保則）



2階ホールより渡り廊下を見る



4階渡り廊下

■ケアハウス秀東館

所在地　山口県玖珂郡周東町大字用田
施　工　井森工業
敷地面積　2,578.39㎡
建築面積　898.37㎡
延床面積　4,272.91㎡
構造規模　RC、4F
竣　工　1998年3月
撮　影　テクニ・スタッフ

ゆったり自然を取り込む

小南一郎　小南一郎建築研究所



南東側全景



2階主寝室。広がる風景と雲の流れが時を生む

街の住まい、郊外の住まい、田園地帯の住まい、条件は異なるものの、そこにはそれぞれの想いを込めた住まいと生活が展開しています。

この住まいは、神戸御影山手のマンションから、三田フラワータウンに敷地を求められた建築主の依頼で設計したものです。敷地は約77坪。北側の道路からは2.5m程上がった段状の土地で、南は遊歩道を介して地区公園が広がり、遠くは六甲山系に連なる山並が望める恵まれた条件の敷地です。設計に際しては、この恵まれた自然を取り込み、ゆとりと広がりが感じられる住空間を生み出すことを基本のコンセプトとしています。

1階は約23帖大の広いリビングダイニングが南面し、全開放の木製建具を開くと、デッキを介して四季折々に変化する公園の緑地、山並の風景が肌で感じられる空間となっています。

2階は、ホールを中心に、東が主寝室ゾーン、西が子供達のゾーンと3つに分けられ、いずれも南面のハイサイドライトから、程良い天空光が入り、明るい室内空間を生み出しています。1・2階共に南北に風が通り抜け、白木、和紙、塗壁の室内空間と、周囲の自然が、時の流れと共に調和する上質な住まい空間を実現させています。

（小南一郎）

■三田・狭間が丘の家

所在地　兵庫県三田市狭間が丘
施　工　三和プランニング
敷地面積　255.02㎡
建築面積　92.63㎡
延床面積　178.38㎡
構造規模　W、2F
竣　工　2000年3月
撮　影　原　定理

時の流れの中で

上谷重男　U建築企画室

あの震災以来7年が経過した。京阪神間の良好な住宅地風景は不可思議な住宅展示場のような風景に一変した。この周辺も、ある敷地には集合住宅が、ある敷地にはメーカー住宅が建ち並び、歩いていても以前の記憶を呼び戻すことが困難になってしまった。

この住宅は、住み、慣れ親しんだこの地で、残りの生活を大切に過ごしたいという70歳代の夫婦二人の終の住み家である。

これから訪れるであろう、身体的な問題に対処できるよう、廊下、寝室、好きな本に親しめる書斎、水回りなどにも配慮しながら、ゆったりとした時間が流れるような部屋で四季を楽しみながら、生活を送れるよう平屋建てで計画した。

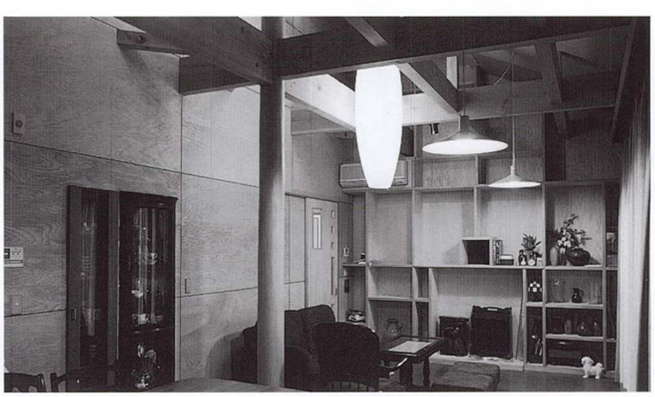
（上谷重男）



南側正面



玄関



居間

■灘の家

所 在 地　神戸市灘区高羽町3-14-2
施　　工　山本工務店
敷地面積　278.18㎡
建築面積　141.26㎡
延床面積　137.66㎡
構造規模　W、1F
竣　　工　1999年8月
撮　　影　U建築企画室

アクセントカラーをいかす

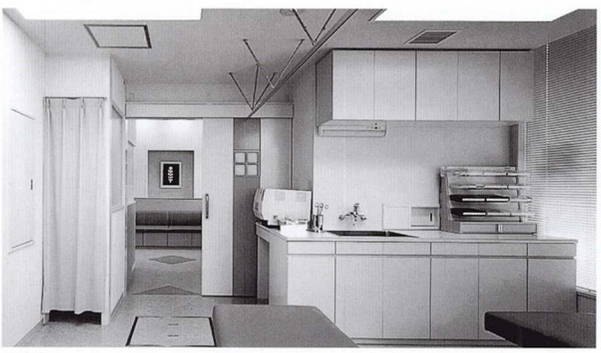
池上　明　エーアイ アーキテクト スタジオ



待合室・受付



待合より入口方向を見る



診察室

クリニックで待合室は狭く診療部は機器が無造作に置かれ圧迫感を感じることが時々ある。今回の計画はビル内のクリニックであり、建物の開口部が限られているため色彩の組合せで明るさと広がりのある空間を構成するように提案した。天井にも変化をつけ照明とのバランスで広がりを持つよう配慮した。室内はマリンブルーをアクセントカラーとし、待合の椅子、診療室・リハビリ室のベッドや機器等患者さんが身体を癒す場所に使われている。また、サブカラーとしてグリーンを各室の入口に用い方向性を明確にしている。機器を含めた色彩構成や、天井の変化で圧迫感をなくし、ドクターのキャラクターを反映させたソフトでやさしいクリニックとしている。

（池上　明）

■滝本整形外科

所 在 地　京都府宇治市槇島町35-46-4
施　　工　鳳クリンメンテナンス工業
延床面積　150.00㎡
竣　　工　2000年10月
撮　　影　稲住泰広

にぎわいと風格ある都心

村上幸三郎　村上デザイン事務所

震災から復興した神戸の姿をお世話になった全国のみなさんにと、感謝を込めて「神戸21世紀・復興記念事業」が開催された。とくに、光は、震災の暗闇から立ち上がった新生・神戸の象徴として市内随所で輝きを見せはじめている。

開港以来の歴史と文化を守る旧居留地地区は、歴史的な洋風建築をはじめ、新旧の多くの建築物が光を纏って地区の夜景を創出している。いずれも特色ある照明演出を競いながらも、地区全体の調和ある夜間景観となるよう留意されている。

その中から、新たに照明演出された3棟を紹介する。

（村上幸三郎）



神港ビルディング：南東の塔屋と最上階を強く意識した照明とした。



旧居留地15番館：国指定重要文化財で、賑わいを感じさせる佇まいを照明演出した。



ニッケビル：低層部の壁面を明るくし、存在感を演出した。

■神戸・光の回廊（旧居留地エリア）

所在地　神戸市中央区旧居留地地区一帯
企画・運営　神戸21世紀・復興記念事業
ライトスケープフェア2001実行委員会
照明デザイン　GK京都
監修　村上デザイン事務所
竣工　2001年7月
撮影　村上　章

空間性能による精神の可変性

藤井　明
藤井明建築空間研究所／日本建築協会会員

詳説－良質心象空間の解明と創造

形態心理などを統合し、精神物理学的検証を透過した上で、一つひとつの主観・客観性の中で変化する心象空間の共有性を捉える、総合的研究である。現況の、バラツキのある空間性能から、広範に良質空間性能を解放することを、表層的目標とする。良質心的空間の創造は、特定の者のみによらない施策が、早期良質社会環境への寄与に付するものと考える。本来、有能な建築家が一つひとつカウンセリングしながら、建築を創造するのが望ましいが、有能の基準と発見の困難さ、また、個人の中にもバラツキが存在し、一設計者の良質心象空間が、常に居住者に当てはまるものとは限らない。そして、余りにも、互いの試行錯誤の時間と経験がかかり過ぎることも含め、社会の流れに個人が合わせる空間になってはいけない。

居住者の主観に少しでも沿うシステムを、危険性を孕む混沌さと、目的の心的秩序のバランスを調整した上で、空間を導入する。その後の空間の成長にアドバイスの役割も含めたい。ある一面、平易な考えでは、現在の分譲区画され同質の住宅を押しきせる、精神の標準化を打ち破り、精神の解放を目指すものである。

カントによれば、空間は先験的判断形式であり、プラトンは、すべての創造、感知されるものの母である、と述べている。ヴァイツゼッカーは、生物は絶えず新しいことを開始し、偶発性は常に秘密であり、偶然と秩序が境を接し、予期と不意が入り混じっている、と述べる。

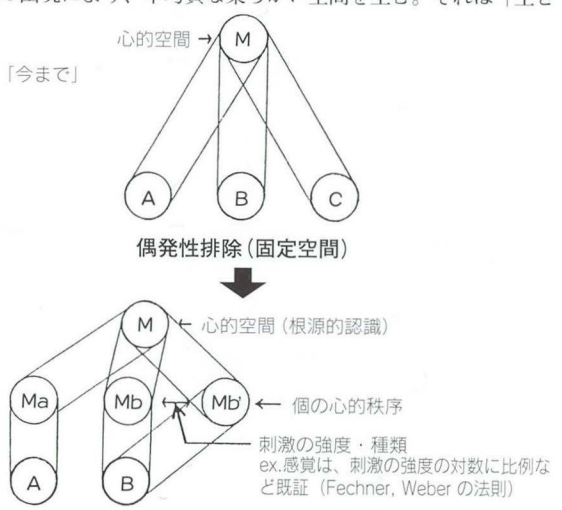
意識の出現により、不均質な柔らかい空間を生む。それは「生きられる空間」である。多様性、偶発性、可変性－それに対応できる空間を固定化しなければ良い。

第一段階の、ある一つのメソッドとして、体系化された良質な秩序を指標として、柔らかい空間に提示できれば良いのではないか？今すぐ完全のみを可としない。

われわれには時間がないのである。空間を自ら可変、体現化して、なおかつデータ集積・解析の上、還元してゆけばよい。今、示唆することが大切なのである。

イメージの完全な一致はあり得ない。根源となる秩序のヒエラルキーの上に、個人の心的秩序が位置し、知覚的緊張を保っている。また、その平衡状態は、常に揺らいでいるものである。

まず、形態・テクスチャー等の選別、良質でないものを排除し、知覚と意識の流動性をテーマに取り、基準となる要素と、個人の多様な知覚的要素（個の意識・無意識、記憶、経験など）を分析・選別した上で積み重ね治験。空間に対する主観意識を認知し、各、主－客観別の共有心象空間をつくり上げる。その空間性能のデータ蓄積が、良質な心象空間を解明してくれるだろう。



基準となる要素（基礎言語）

根源的な知覚現象…
- 色彩対比、垂直と水平、上昇と下降感、開放と閉鎖感、など

心象空間の構成……
- 動と静、開閉、対立、延長、透過性、など
- 精神力学的ベクトルによる空間の方向性、連続性、前出・後退、圧縮・膨張、濃淡、強弱、変形、など

◆

心象空間は、一定にとどまるものではなく、様々に組織化されて描かれるものである。

ジークムント・フロイトによる考察に従う空間の変遷として、「挿入－感知－内変換－分離－重複」の認識を持つ。

記憶されるだろう良質な心的空間を、きちんと捉えることが、目的の一つでもある。

◇

“心”の内的情景として、不透明・透明の濃淡、交錯した、固まらないゲル状の生き物と解する。またそれらは、三次元の断片どうしが、別の次元のトンネルで、相互に、または外界から繋がり得る、複雑な構造を持つ。

それらは、多種多様な刺激によって、不規則に、強弱運動している。（詩的に言えば、様々な色を持つ光彩を強弱、放っている。）

9月号本誌掲載「空間性能による精神の可変性を研究してきて」に関し、核心部分の一部主旨の内容伝達を補うため、前回のストーリーに続き追記する。

ご笑読のことと思うが、まだ多々の議論を得ず投じたもので、完全な正解を予想しないが、私は、現社会の人的環境の中に、意志を投じることを大事とする。これまでの研究は、無援の一研究人として、確固たる目的のみを持って、結論を導き出そうとする姿と見ていただきたい。

まず今、この心的環境に、早期に良質性の空間をいかに多く生み出せるか！　それには、一考察でしかないが、今の論考の実証を急ぐことが肝要と考え、㈳日本建築協会の助力をもって、現したものである。

今まで導入部分について述べたが、多くはまだ、語り足りない。内容の相違はあれ、目的の社会環境への“建築”の付与について、今一度、様々な方々にご再考いただければ、と存ずる。

空間に何を求めるのか？　大なり小なり空間の導入時、特に、固定化された空間はリスクを含み、空間の創造時の重要性についても、われわれは再認識しなければいけないと思う。　（ふじい　あきら）

奈良県立万葉文化館見学会

時空を超えて、万葉の故郷へ誘う

小笹光彦
ランテック計画事務所／事業委員

甘樫丘、高松塚古墳、酒船石など日本の古代を偲ばせる懐かしい名前が点在する明日香村の一角に、9月15日に「奈良県立万葉文化館」がオープンした。

平成13年9月29日（土）、オープンしたばかりの上記建築の見学会が㈳日本建築協会事業委員会見学会小委員会により開催された。

万葉への誘い

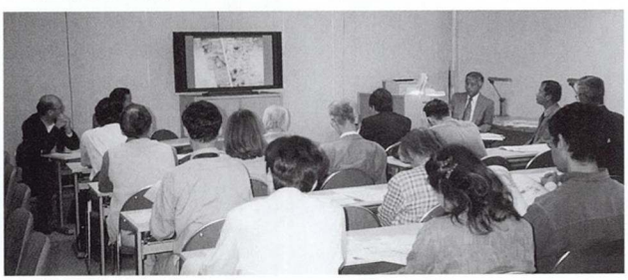
正面玄関を入ると、エントランスギャラリーが広がる。そこに、鳥と船をデザインモチーフとした幅9.0m、高さ2.5mの巨大な美術陶板があり、私たちを迎え入れてくれる。陶板には「万葉へのいざない」と題して、次のようなメッセージが記されている。

「明日香は万葉の故郷。日本文化の源。かつて明日香には数多くの白鳥が飛翔していた。飛ぶ鳥は古代では繁栄の象徴。飛鳥の明日香とはめでたさをこめた呼称であった。

海を渡る船は物を運び、人と人の心をつないだ。遣唐使船に乗り、文化の交流を目指した万葉びとと同じく、いま私たちはこの地奈良から、万葉を核として、21世紀の国際的文化交流に向けて船出する」

建築の概要

管理・研究棟の研究室にて、岡本淳氏より概要説明、永島敏郎氏より建築説明、井本喜典氏より展示説明がおのおの20分程度あった。



本館は天香久山の南、甘樫丘の東、石舞台の北に位置し、これらが形成する三角形のほぼ中央にあたり、文字通り飛鳥古京のど真ん中に立地する。それだけに法規制も厳しく、古都保存法の第2種及び風致地区の第2種に指定されている。

敷地面積38,400㎡の中に、SRC造、地上1階、地下1階の展示棟と管理・研究棟の2棟がブリッジでつながった構成で配置されている。建築面積は6,370㎡、延床面積は11,090㎡で、周囲には万葉庭園が周辺景観に調和して、伸び伸びと広がっている。

屋根は大きめの特注瓦による行基葺きで覆われ、軒回りは銅板葺き。外装は正倉院の校倉造をイメージした意匠と白いコンクリート柱による列柱方式を採用している。

万葉文化館の機能

本館の機能は次の3つである。まず、調査・研究機能として、万葉集を中心とした日本の古代文化とその当時の生活文化の研究。

つぎに、展示機能であるが、これは屋内展示と屋外展示から成る。屋内展示においては、その代表展示として、万葉の歌ごころをわが国の第一線の画家約150名に描いてもらった創作日本画を展示。

もう一つは、図書・情報サービス機能であり、万葉の時代やその時代の文化に関する情報が幅広く得られる高機能の情報センター。

竣工までのプロセス

本館の構想が生まれたのは7年前に遡る。思い返せば6年の歳月を要したプロジェクトであり、その間、様々な出来事があり、やっとオープンにこぎつけたというのが正直な実感であるとのこと。

当初は、「万葉ミュージアム」と称されていた。平成8年に整備構想が策定され、その年に建設地をこの場所に決定した。候補地としては、ほかに当時、桜井市、橿原市、大宇陀町の名も挙げられていた。

平成8年にプロポーザルが行われ、安井建築設計事務所に決定し、9年から基本設計、10年から実施設計に入り、11年に着工、本年の3月に建築が竣工した。

富本銭と亀形石造物の発見

建設工事に伴い、特級品ともいうべき2つの文化財が発掘された。

その一つは富本銭である。平成11年の着工前に行われた発掘調査中に、まず1枚の富本銭が出てきた。調査を続行しているうちに続々とみつかり、それらを鋳造したと思われる炉跡も確認された。「富本銭」は「和同開珎」よりさらに古い日本最古の銅貨である。

この地は、「飛鳥池遺跡」と呼ばれている。干上がった飛鳥池に位置し、天武、持統、文武朝にわたる官営工房群の跡である。富本銭のほかに銅、鉄、金、銀、ガラス製品の工房を置いていたという。

この発見により、炉跡群を避けて2棟を大きく引き離し、これをブリッジでつなぐ配置に変更した。そして炉跡群を復元し、これをサンクンガーデン風の形態の中庭として棟間に取り込んだ。この出来事のため、起工式も約半年遅れることとなり、その間数々の修正案が検討され続けた。

さらに平成12年正月には、新たに亀形石造物が、周辺の取り付け村道の工事中に発見された。このため、アプローチ道路、駐車場、庭園の整備は大幅に遅れた。この亀形石造物は、有名な酒船石遺跡と一連の遺構とみられ、斎明天皇の両槻宮ではないかと推定されている。

相次ぐ2つの文化財の発見は、日本の古代史を揺るがすほどの重要なものであるが、もし、2つが同時に発見されておれば、本館の完成はなかったかもしれないとのこと。しかし、見方を変えれば、このような貴重な遺跡が発見されたのは、本プロジェクトのおかげでもあり、まさに万葉文化館は遺構・遺跡と共存しているといえる。

＊

期間限定で展示されていた富本銭の本物を直接目にし、感慨もひとしおであった。

関係各位の皆様方、大変有難うございました。

（おざさ　みつひこ）

日時　2001年9月29日（土）13：00～16：30
場所　奈良県立万葉文化館
講師　岡本淳／奈良県（元）企画部万葉ミュージアム建設室室長補佐
　　永島敏郎／安井建築設計事務所設計部統括主任
　　井本喜典／奈良県立万葉文化館学芸係長
司会　森田芳次事業委員／安井建築設計事務所

新たな「神戸市住宅基本計画（2001－2010）」の策定

中原　信
神戸市住宅局住宅部計画課主査

神戸市では、平成２年に全国に先駆けて住宅政策の基本的指針となる「神戸市住宅基本計画」を策定し、以来、長期的、総合的視点に立った計画的な住宅政策を展開してきた。

しかし、平成７年１月に発生した阪神・淡路大震災によって約８万２千戸の住宅が滅失するなど、市内の住宅事情は激変した。これに対応するため、種々の計画を策定し早期の住宅復興に全力をあげるとともに、震災復興の総仕上げと21世紀を見据えたすまい・まちづくりに取り組んできた。

このような経緯をふまえ、震災とその復興の過程で得られた教訓を糧に、大きく変わりつつある社会・経済や多様化する市民のすまいへのニーズに応えるため、21世紀を迎えた本年４月、新たな「神戸市住宅基本計画（2001－2010）」を策定した。

なお策定にあたっては、同年２月に神戸市すまい審議会より、21世紀初頭の住宅政策のあるべき方向性について答申を受けている。

「神戸市住宅基本計画（2001－2010）」の概要

「神戸市住宅基本計画（2001－2010）」は2001年度から2010年度までの10ヵ年計画で、「住みたいまち、住み続けたいまち、また訪れたいまち神戸」を目標像とする。

その特徴は、以下のとおり。

⑴21世紀初頭における新たな住宅政策の理念として「新住宅政策宣言～すまいから始めるまちづくり～」を掲げた

震災の復興に立ち向かう神戸市民の「自律と連携」を出発点として、市民の暮らしを視野に入れたすまいにかかわる総合的な政策を展開し、すまいは市民の生活、都市の活動などの重要な基盤であるとの認識のもと、「すまいから始めるまちづくり」に取り組むことで、神戸市民の住生活、住環境、住文化を守り、創り、育む。

⑵すまい・まちづくりにおける３つの基本目標と５つの基本方針を設定した

◆３つの基本目標

①共振と共生によるすまい・まちづくりの推進

②安全で安心なすまい・まちの実現

③魅力あふれるすまい・まちの創造

市民、事業者、専門家、行政などが、共にふれあい響きあうことで相互理解を深める「共振」と、自らの責任や役割を認識しながら共に協力し参画する「共生」によって、協働のすまい・まちづくりを推進し、誰もが安心して住み、暮らすことを可能とする「安全で安心なすまい・まち」の実現と、市民さらには市外の人々をもひきつける「魅力あふれるすまい・まち」の創造をめざす。

◆５つの基本方針

①「ひと」を基本としたすまい・まちづくり

②「地域」を基本としたすまい・まちづくり

③「ストック」を重視したすまい・まちづくり

④「市場」を重視したすまい・まちづくり

⑤多様な「社会サービス」との連携によるすまい・まちづくり

「ひと」と「地域」を基本に、「ストック」と「市場」を重視し、あわせて、市民活動、保健福祉、産業経済、環境、都市計画、教育、文化など多様な「社会サービス」との連携によるすまい・まちづくりを進める。

⑶４つの施策の基本的方向性のもと、関連部局の施策を含む154の具体的施策を列記した

①良質な住宅ストックの形成と適正なマネジメント

安全性・適法性を確保したすまい・まちづくり、すまいの品質・性能の向上、ひとや環境にやさしいすまい・まちづくり、すまいの適正な維持管理と建て替え等を推進する。実施施策例は下記に示す。

・合格プレートの発行、中間検査対象の拡大
・違反建築110番の設置
・戸建て住宅耐震簡易診断事業
・神戸市型中古住宅性能表示制度の創設
・共同住宅バリアフリー改修補助事業
・環境負荷軽減型総合設計制度の創設
・マンション管理専門家派遣制度など

②個性ある地域住環境の形成

すまいやまちの文化の継承と発展、住環境整備の継続的･総合的展開、市民に身近なまとまりから始める住環境形成、「わがまち」のすまい・まちづくりの支援に取り組む。

・すまい・まちづくりフェア
・まちなか型建築協定
・まちなかモデルハウス
・近隣住環境計画制度
・住環境形成プログラムの策定など

③総合的な居住サービスの提供

被災者住宅再建等の継続的な支援、だれもが安心して暮らせるすまいづくり、新しいすまいや住まい方の創造・支援に取り組む。

・震災特例家賃の延長
・民間賃貸住宅家賃負担軽減事業の延長
・高齢者居住安定確保法への対応
・高齢者円滑入居賃貸住宅登録制度
・子育て支援のびのび住宅制度
・住宅とあわせた福祉施策情報等の提供
・市営住宅活用型総合居住サービススペース貸与モデル事業など

④健全な住宅市場の育成・活性化と市民への支援

すまいに関するワンストップサービスの実施、住宅市場の健全化と市民への支援、住宅市場の育成・活性化、すまいに関する多様な主体との連携に取り組む。

・神戸市すまいの安心支援センター“すまいるネット”
・中古住宅性能保証制度の普及促進
・神戸市型の中古住宅性能表示制度
・住宅市場情報の把握
・住宅品質確保促進法対応マニュアルの作成
・公庫リバースモーゲージ制度の普及啓発
・介護保険制度等との連携
・情報提供の一元化
・住宅・建築コンサルタント・NPOバンクなど

⑷より総合的、長期的な視点のもと重点的に取り組む６つの重点プロジェクトを掲げた

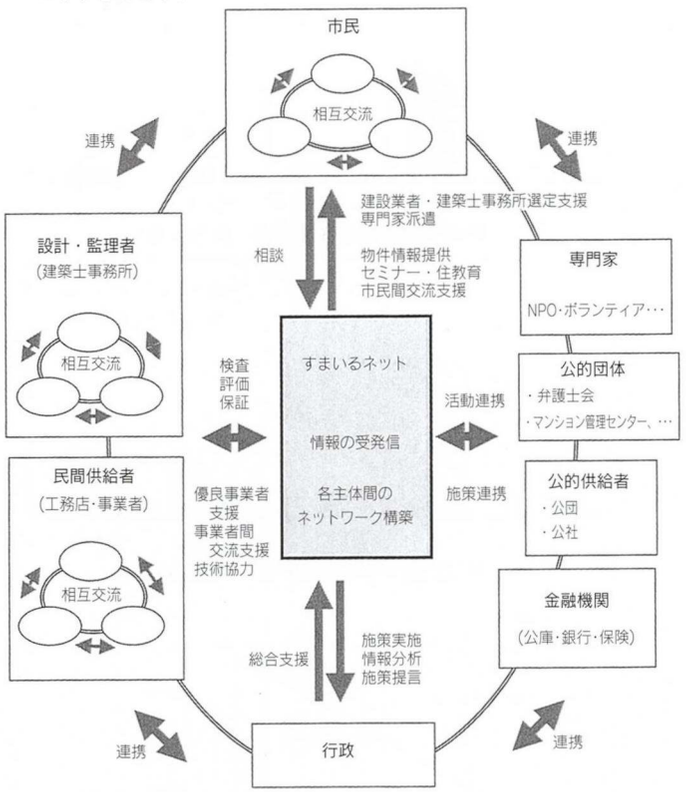
①日本で最も安全なすまいのまち“神戸”をめざして

被災都市の責務として、すまいづくりにおける適法性の確保、す

まいの安全改修の支援、市民に身近なまとまりから始めるまちの安全性向上などに取り組む。

②市民が自ら安心なすまいを選択できる環境づくり

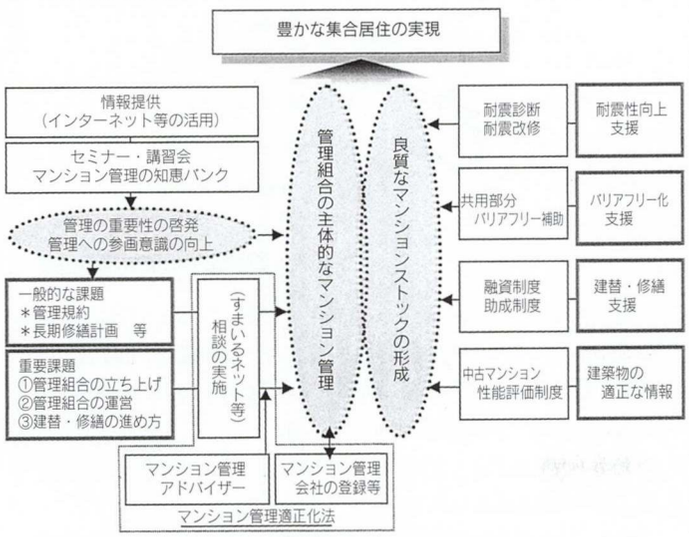
神戸市すまいの安心支援センター“すまいるネット”を核として、すまいに関する情報のサポート、安心なすまいづくりに向けた取り組み、すまいに関する各主体との連携、情報の蓄積・分析・発信を行い、住宅市場の中で、市民が自ら安心なすまいを選択できる環境づくりをめざす。



安心なすまいづくりのためのネットワークのイメージ

③より豊かな集合居住に向けて～マンション管理の総合支援～

本市では、これまでからマンション管理組合の自主的な運営に資する基本的知識の普及・啓発に努めてきたが、今後はさらに多面的な支援策を実施し、良質なマンションストックの形成を誘導する。



マンション管理の総合支援のイメージ

④ストックの計画的な再編・改善と新たな運営～市営住宅マネジメント計画～

平成11年度に策定し事業を実施している「市営住宅マネジメント計画」に基づき、市民の理解と協力を基本として、市営住宅ストックを適切に維持管理するとともに、計画的な再編及び改善を推進し、市民に親しまれるより良い市営住宅ストックを次代に繋いでいく。

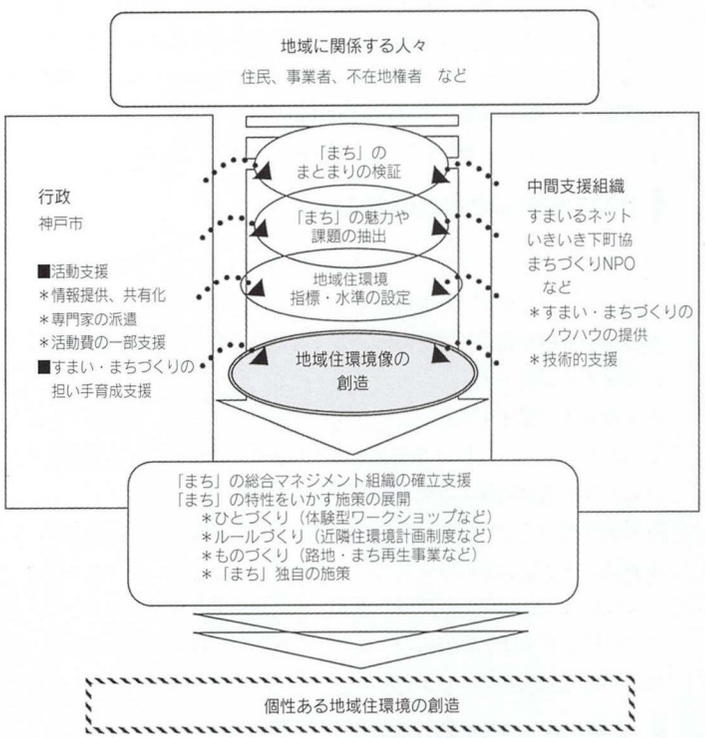
⑤人と環境にやさしいすまい・まちづくり

これまでに「神戸市バリアフリー建築設計マニュアル」や「神戸の住宅設計基準（コーデス）」を策定し、人にやさしいすまい・まちづくりに取り組んできた。これとあわせ、今後はユニバーサルデザインの考え方を導入し、誰もが安全で快適に利用できる先導的な公共建築物や住宅づくりを進めていく。

また、環境にやさしいすまい・まちづくりについては、環境共生住宅、エコロジー建築などの取り組みを進めてきたが、今後はこれらを一般の住宅・建築物にも広げていく。

⑥コンパクトタウンをめざした地域住環境の創造

市内には多様な住環境特性を持った地域のまとまりとしてのいわゆる「まち」が形成されている。このような住環境特性をいかしながら、地域にかかわる人々がすまい・まちづくりに主体的に取り組むことのできる仕組みづくりを進め、これを総合的に支援することで、コンパクトタウンをめざした地域住環境を創造していく。



コンパクトタウンをめざした地域住環境の創造のイメージ

今後の展開

すでに、この基本計画に基づいて具体的な取り組みを進めているところであるが、今後の社会・経済情勢の変化も著しいものであることが予想される。本計画も定期的な見直しを行いながら、実態に即した取り組みを行うこととしている。

（なかはら　まこと）

住宅性能評価の現状

上田弘樹　小柳義雄
㈱都市居住評価センター 住宅性能評価事業部

平成11年６月23日に、「住宅の品質確保の促進等に関する法律」（以下品確法という）が公布され、その一部が平成12年４月１日に施行、７月19日をもって全面公布された。その後、一部が改正され、現在に至っている。このうち、品確法に基づく任意の住宅性能評価は、平成12年10月３日から開始されている。

ここでは、住宅性能評価の現状として、品確法の意義、住宅性能表示制度の位置づけ、住宅性能表示制度の現状、構造的な観点からみた住宅性能表示制度について、評価実務者の立場から紹介する。

品確法の意義

住宅の需給構造が、建て主と大工・棟梁との直接的な関係に加え、メーカー・ディベロッパーの介在する生産・供給体制になってから久しい。しかしながら住宅購入者への情報提供、品質体制等は、例えば車の性能表示などに比べ立ち後れ、欠陥住宅という社会問題を引き起こしてきた。そこで、スクラップ＆ビルド時代の反省から、近年良質な住宅ストックの重要性が強く叫ばれてきている。

こうしたなかで生まれた品確法は、耐久性・安全性を含めた住宅の性能・品質についての住宅情報開示等を購入者に対して、性能評価のための「共通のものさし」として提供している。また、供給する側もこの制度をうまく活用すべきだと位置づけている。

品確法の目的は、①住宅の品質確保の促進、②住宅購入者の利益の保護、③住宅に係わる紛争の迅速かつ適正な解決、を図り、国民生活の安定向上と国民経済の健全な発展に寄与することである。

品確法の骨格は、①住宅性能表示制度、②住宅に係わる紛争体制の整備、③瑕疵担保責任の特例、で構成されている。このうち、①と②は任意の制度（選択制）、③は義務づけの制度である。

住宅性能表示制度の位置づけ

住宅選択のための要素は、立地、建物の性能・品質、価格と考えられる。住宅性能表示制度の適用に際しては、この制度は客観評価の容易な事項を選択して定めていることを考慮して、次に示す事項に留意する必要がある。

①建物単体の規定である。

②意匠性（プラン、広さや階高）、周辺環境、セキュリティ設備・メディア関連設備等が考慮されていない。

③等級が高いことが、すべての人に最適とはならない（等級競争に巻き込まれないように）。

したがって、これらの事項も考慮して、ライフスタイルのニーズや変化に応じて様々な要因のバランスのもとで、住宅の選択は総合的に判断・選択される必要がある。

住宅性能表示制度の現状

「日本住宅性能表示基準」に従って評価を実施する指定性能評価機関は、全国で83機関（H.13.７.末現在）ある。一般の性能表示事項に対する住宅の性能評価は、指定性能評価機関により「評価方法基準」に基づいて行われる。特別な評価方法等を用いた性能評価については、指定試験機関で行われる。この指定試験機関は、全国で６機関（H.13.７.末現在）ある。

住宅性能評価が開始されたH.12.10からH.13.７.末までの性能評価実施状況（国土交通省まとめ）を**表１**に示す。このうち設計住宅性能評価について、戸建住宅と共同住宅に分けて地域別に示すと、**図１**および**図２**のようになる。性能評価の実施戸数の割合は、関東圏、近畿圏、東海・中京圏の順となっている。

また、実施状況を２カ月単位で整理して、**図３**に示す。この制度が、徐々に取り入れられていることが分かる。

次に、当評価センターがこれまでに実施した約3700戸の設計住宅

表１　住宅性能評価実施状況（国土交通省まとめ）

	一戸建住宅		共同住宅等	
	受付	交付	受付	交付
設計住宅性能評価	4,676戸	4,364戸	27,394戸	22,421戸
建設住宅性能評価	3,672戸	987戸	16,497戸	52戸

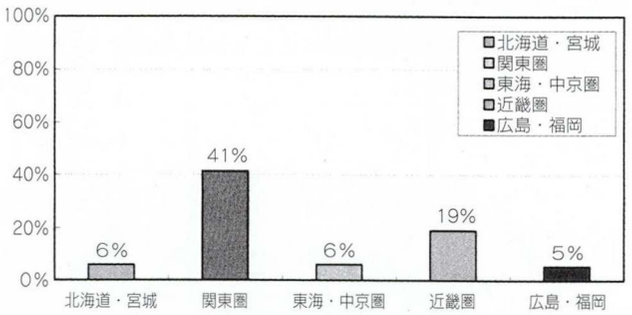


図１　地域別設計住宅性能評価（戸建住宅）

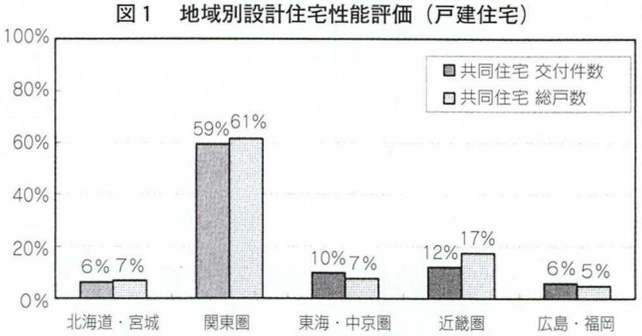


図２　地域別設計住宅性能評価（共同住宅）

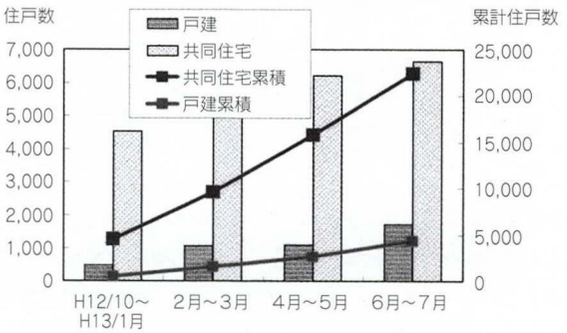


図３　２月ごとの設計住宅性能評価戸数

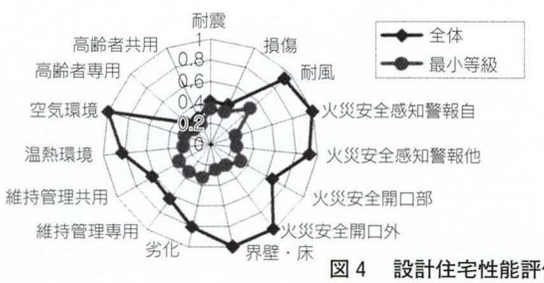


図４　設計住宅性能評価の等級

性能評価（共同住宅）について、性能表示事項ごとに等級を整理して**図4**に示す。図は、評価の最高等級が最外縁に位置するように等級割合に応じて示している。図には、評価等級の平均を最小等級と比較して示している。ここで、建築基準法を満足するのみの場合は最小等級の1となる。性能表示事項のうち、火災安全、劣化の軽減、空気環境などの事項については高い等級で設計され、耐震、高齢者の事項についてはハードルが高いのか、最小等級に近いレベルで設計されている状況にある。

構造的な観点からみた住宅性能表示制度

構造的には、耐震性能、耐風性能、耐積雪性能および劣化の軽減などの性能表示事項があるが、以下に耐震性能と劣化の軽減の事項について述べる。

1）耐震性能の評価

①評価方法基準による評価（一般）

耐震性能を高めようとする場合には地震荷重の適用倍率を大きくする必要がある。このため、例えば等級3の場合には、等級1の場合に比べ建物重量で4～5%程度増加している事例もある。杭の断面検討においては、特に建物が高層化すると、転倒モーメントによる軸力と水平せん断力の増大により一般的な場合に比べ断面を大きくする必要があるなどに、留意する必要がある。

②特別な評価方法等の場合

高層建物等の評価においては、建築基準法に基づく大臣認定のみの取得では等級が1となり、高い等級を得るためには住宅性能試験機関により品確法に基づく大臣認定を取得する必要がある。このため、設計クライテリアは基準法の場合に比べ高水準になる点に留意する必要がある。**写真1**に、耐震および劣化の軽減について高い評価を受けた建物を示す。

2）劣化の軽減の評価

①使用材料

建物に使用する材料は、建築基準法第37条に定められた材料とすることが必要であり、日本工業規格または日本農林規格に適合していない材料については大臣認定を取得する必要がある。例えば、日本工業規格に規定されていない高強度コンクリートを使用する場合は、大臣認定を取得する必要があり、認定準備のための期間も設計および施工工程に考慮しておく必要がある。

②建物の評価

劣化の軽減の評価（耐久性）を高めようとする場合には、鉄筋コンクリート造においては、コンクリートの水セメント比に応じて所定のかぶり厚さを確保する、鉄骨造においては所定の防錆処置を施すなどの必要がある。ここで、特に鉄筋コンクリート造については、鉄筋の納まり（柱に対して梁が片寄りとなる場合や直交する梁主筋のアンカー方法など）を考慮して、所定のかぶり厚さを確保できるよう部材断面を定める必要がある。また、打ち継ぎなどの目地部に対しても、かぶり厚さを確保する必要がある。

なお、劣化の軽減の評価について、高い等級を設定している評価例が多い。鉄筋コンクリート造の建物が大半を占めているが、かぶり厚さについては、部材断面を大きくしないで対応するために、強度の高いコンクリートを採用（水セメント比を50%以下とする）している例が多い。



写真1　青山パークタワー
提供：三井不動産、三井建設

住宅性能表示制度の展望と課題

住宅性能表示制度は任意の制度ではあるが、将来を見越した大いなる試みであると思われる。本格的な実施とともに、社会に良い面で大きな影響を及ぼしていくと思われる。このためにも、生じる課題に迅速に対応していく必要があると思われる。

1）展望（住宅が変わる）

今後、「品確法に則って設計および建設がなされ、評価機関がその内容を評価し担保する」という新しい社会システムが普及していくことになる。中古住宅の市場においても、これらの制度に基づく住宅の評価が標準になっていくものと思われる。社会の制度およびシステムとうまく融合していくことを期待する。

2）課題

①品確法の適切な啓蒙

前述の通り、品確法の評価項目の等級は万人に共通の評価軸を示すものとは限らない。購入者優位になりつつある状況の中で、安易な等級競争にならないことを期待したい。また、評価の主旨および内容を購入者に分かりやすく説明する工夫が必要である。

②評価基準の判断・運用方法

品確法は、世に出て日も浅いこともあり、評価基準の運用について判断に戸惑う事項が多くある。これについては、所管部署および評価機関の集まりである住宅性能評価機関等連絡協議会などを通じて運用方法を明確にし、温度差のない評価をできるよう心がけたい。

③性能水準とコストの関係

住宅性能の持つ意味について理解を得るには、性能水準とコストの関係を、建設時および維持管理の両面で明らかにする必要がある。「等級アップによるコストアップ」のツケがその時点での弱者（現在では生産者側）に押しつけられることがないように望まれる。

④評価手続きの一本化

住宅の供給者側にとって、限られた時間と資金を最大限に活用することは、良質住宅供給の基本であり、そこに合理性も生じる。建築基準法の改正および品確法の制定などにより、供給者側の手続きが細分化され、これに要する期間と手間も増えている現状である。したがって、建築確認・検査、住宅金融公庫の審査、住宅性能の評価および認定（基準法および品確法の両面）、使用材料の認定などの手続きをうまく一本化できることが望まれる。

当評価センターでは、これらを一本化して平成14年早期に取り扱えるように、現在準備中である。

（うえだ　ひろき、こやなぎ　よしお）

置換換気・成層空調方式

村田敏夫
日本フレクト株式会社

近年の建物の高気密化にともなって、室内空気質に対する関心が高まり、また外気処理負荷に要するエネルギー消費の大きさからも、換気の重要性が増している。その結果、一人当たりや床面積当たりの外気量で表される「量」による換気から、「質」への転換が求められている。平成12年度の建築基準法の改正[1]により、室内空気質を維持できる換気方式であれば、通常の値よりも外気量を削減することが法制上は可能になっている。これも性能規定という「質」への転換と言えるであろう。

このような要求に対して生まれた、換気の良否を示す指標としての換気効率と、良好な換気を実現する手段としての置換換気・成層空調方式について、基本的な技術説明と、日本における実施例について述べる。

良い換気とは

換気には「室内空気と新鮮空気の入れ替え」と「汚染物質の室内からの除去」という、二つの大きな機能がある。この機能について良好な状態が「良い換気」ということになるが、では、どの程度良好かを表すには、明確な指標が必要となる。換気の良否を示す指標として、いくつか提案されているが、これらを総じて換気効率と呼ぶ。

ここでは換気効率の中から、換気の二つの機能それぞれについて、代表的な指標を紹介する。

局所空気交換効率 ε_p

室内に汚染物質が充満している状態から、新鮮空気を供給した場合のことを想定する。図1に示すように、もし給気口のすぐ近くであれば、一瞬にして汚染物質濃度が少なくなるが、よどみのある場所ではなかなか汚染物質濃度が減少しない。この汚染物質濃度の時間変化をグラフに示すと図2のようになる。そこで、室内のある場所における空気が、新鮮空気と入れ替わる速さを数値で表すには、図2で示す減衰曲線が描く面積を求めれば良いということは容易に想像できるであろう。この面積、すなわち濃度減衰曲線C_pを時間

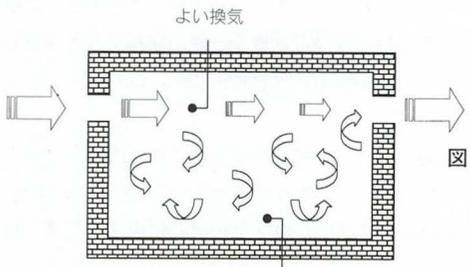


図1　室内の換気

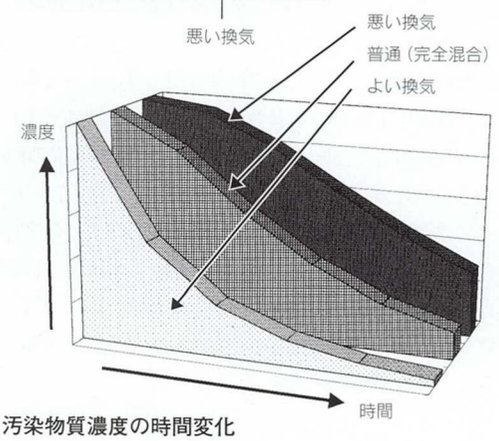


図2　汚染物質濃度の時間変化

τで積分して得られる値を、局所空気齢τ_p[2,3]として表す。τ_pを式で表すと次のようになる。

$$\tau_p=\int_0^\infty C_p d\tau / C_0$$

C_pは点pにおけるτ時での汚染物質濃度で、C_0は初期状態の汚染物質濃度を示す。

局所空気齢τ_pは部屋の大きさにより変化するので、そのままでは換気の良否を判定し難い。そこで図3a, bに示すように完全混合での空気齢τ_nと比較をして、この比を局所空気交換効率ε_pとして表す。ε_pが1より大きい場合、良好な換気を示す。

$$\varepsilon_p=\frac{\tau_n}{\tau_p}$$

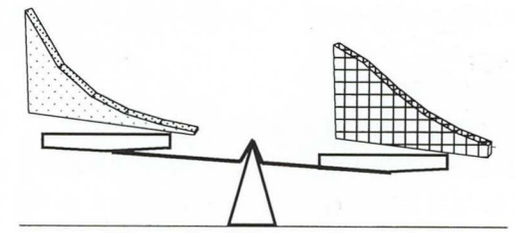


図3a　良い換気のτ_p（$\varepsilon_p>1$）

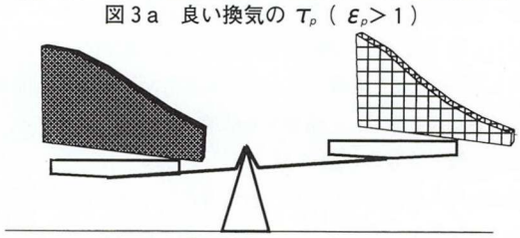


図3b　悪い換気のτ_p（$\varepsilon_p<1$）

清浄度指数 η

汚染物質を室内に拡散させないで除去できれば、室内の汚染物質濃度は低く保たれる。もし汚染物質が室内全体に拡散してしまった場合は、室内全体と排気口での汚染物質濃度は等しくなる。したがって、室内と排気口での汚染物質濃度を比較すれば、換気の良否が判定できることになる。しかし、単純に濃度だけを比較した場合は、給気に含まれる汚染物質による影響が出てしまうため、室内と排気口の濃度から、給気に含まれる汚染物質濃度を差し引き、室内での汚染物質増加分のみを求め、この比を清浄度指数ηとして表す。

$$\eta=\frac{(C_e-C_s)}{(C_p-C_s)}$$

置換換気方式とは

前述のような換気効率の考え方から生まれたのが置換換気方式[4]である。すなわち、給気を速やかに必要な場所に届けることと、汚染物質を拡散させずに排気口へ導くことで、良好な換気を実現する。基本原理は、図4に示すように下から給気し、上から排気を行うことで、汚染された空気を清浄空気に置き換えてしまうというものである。

ここで重要なのは、室内の中で良好な換気を必要とする部分は、人間の背の高さを基準とした居住域と呼ばれる、床面から高さ2m程度までであること。次に、人体など主な汚染物質発生源は、発熱を伴うという点である。この特徴を利用し、給気温度を室温より低く設定し、室内を撹拌しないように微風速で給気すれば、居住域内で生じる発熱を伴う汚染物質は、自らの対流により速やかに居住域

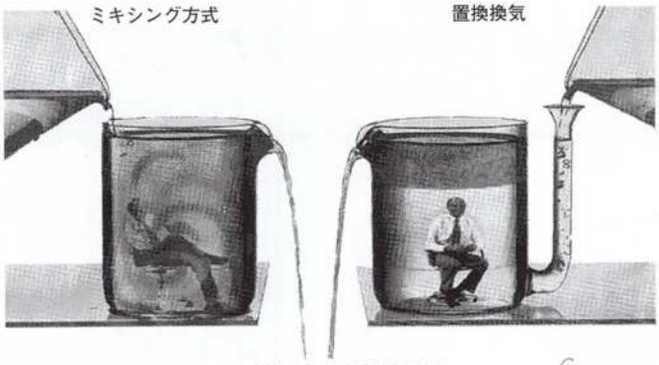
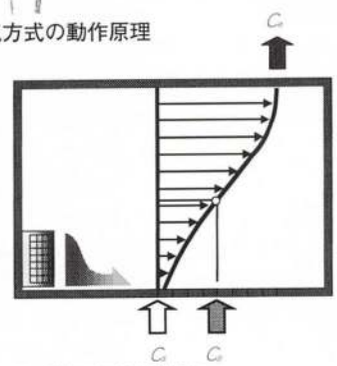


図4　換気方式の動作原理

より上の部分に移動するため、居住域を清浄に保つことができる。

図5に、置換換気方式における汚染物質濃度の上下分布と、その場合の清浄度指数について示す。



C_s：給気の汚染物質濃度
C_p：居住域の汚染物質濃度
C_e：排気の汚染物質濃度

清浄度指数 $\eta = \frac{(C_e - C_s)}{(C_p - C_s)}$

図5　置換換気方式における汚染物質濃度の上下分布

成層空調方式とは

置換換気方式を温調システムとして見た場合は、居住域のみを対象として冷房装置として機能する。室内の上下方向に温度の異なる空気の層が形成されることから、これを成層空調方式として呼ぶ場合もある。

室内の上下の温度分布を図6に示す。従来のミキシング空調方式は、室内の温度が一様で、排気と居住域の温度は同じ値になる。一方、成層空調方式では居住域の温度は排気より低くなる。したがって、給気温度をミキシング空調方式に比べて高く設定することができるため、外気冷房期間を長く使用することができる。また、天井が十分高い場合は、排気温度を居住域の温度よりも高くすることで給気と排気の温度差を大きくし、給気風量を少なくすることが可能となる。さらに居住域より少し高い位置に還気口を設け、排気口を室内の最上部に設置することにより、冷却コイル負荷を削減可能である。このように成層空調方式は、天井高さが大きくとれる場合、ミキシング空調方式に比べて省エネルギー性に優れている。

置換換気・成層空調方式はミキシング方式とシステムの考え方が異なるため、設備設計における給気風量や給気温度といった値の求め方も、ミキシング方式とは違った方法が必要となる。様々な算出方法が提案されているが、代表的なものとして米国冷凍空調技術者協会ASHRAEより設計指針[5]が示されているので、興味のある方は参照されたい。

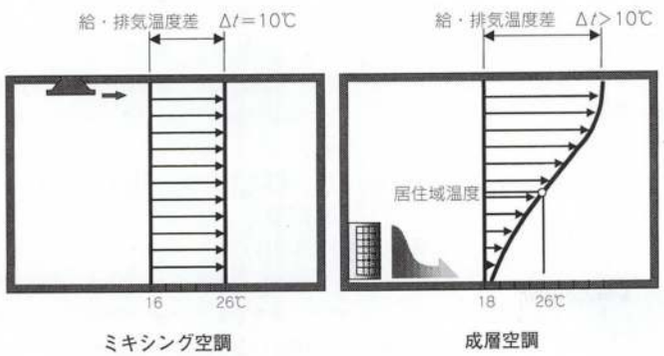


図6　室内の上下温度分布

日本における実施例

図7に、置換換気・成層空調方式を音楽ホールに使用した事例[6]を示す。図7aは夏期条件における室内温度の測定結果を示している。成層空調の名前通り、水平方向に温度層が形成されていることがわかる。図7bは置換換気方式とミキシング方式の両システムについて、局所空気交換効率 ε_p を測定した結果を示している。横軸は局所空気交換効率 ε_p、縦軸は床面からの高さを示しており、2m以下の居住域で、ミキシング方式の $\varepsilon_p \fallingdotseq 1$ に対して、置換換気方式は $\varepsilon_p > 3$ という値になっている。この結果より、置換換気方式はミキシング方式に比べて、換気効率に優れた換気システムであることが確認された。

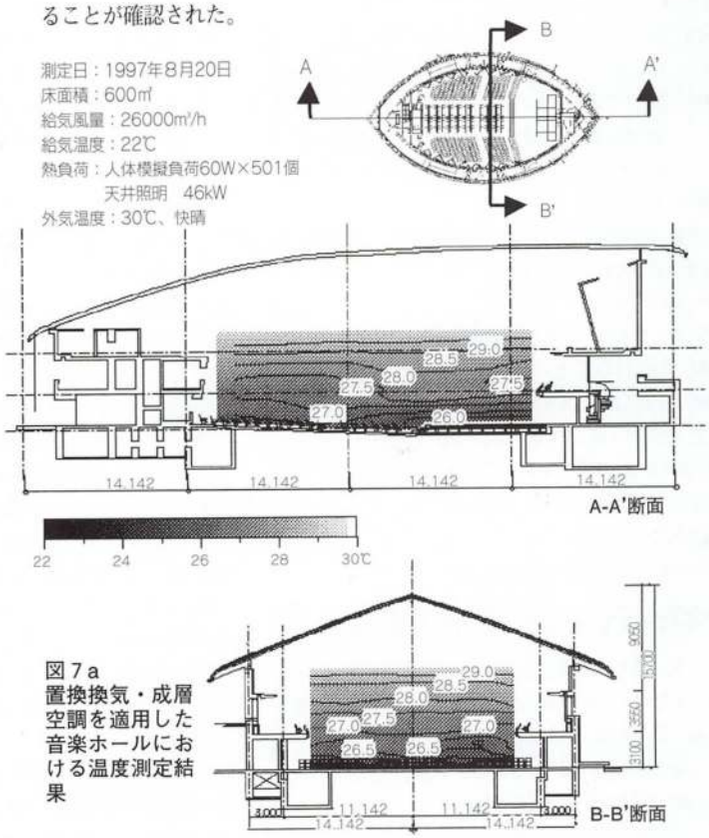


図7a
置換換気・成層空調を適用した音楽ホールにおける温度測定結果

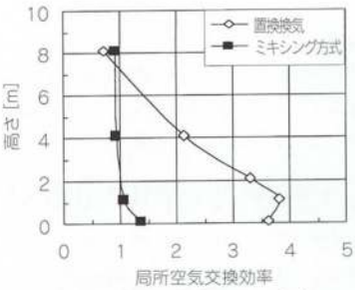


図7b　換気効率の上下分布

このほかにも2001年9月の時点で、日本における置換換気・成層空調方式の実施例は筆者のかかわったものだけでも40件を越えている。このように、置換換気方式は日本において、十分な実績のあるシステムであると言えるであろう。

参考文献

1）建設省住宅局建築指導課／㈶日本建築設備・昇降機センター：換気・空調設備技術基準,(2000).
2）Sutcliffe, H.: A guide to air change efficiency. Technical Note AICV28, Air Infiltration Center. (1990).
3）ANSI/ASHRAE 129-1997: ASHRAE Standard, Measuring Air-Change Effectiveness. (1997).
4）村田敏夫：置換換気方式の設計, 空気調和・衛生工学会 第70巻 第8号, pp.597-602
5）Yuan,X.: Performance Evaluation and Design Guideline for Displacement Ventilation. ASHRAE Transactions. (1999) Vol.105-1
邦訳：「置換換気の性能評価と設計指針」空気調和・衛生工学会 第74巻 第6号, pp.491-499
6）李晟在ほか：置換空調システムを用いた音楽ホールの温熱環境・換気効率実測, 空気調和・衛生工学会学術講演論文集, Vol. 1, pp.77-80

（むらた　としお）

第3回村野藤吾設計図展

●展覧会（入場無料、図録有料）
「村野藤吾とふたつのそごう」
日時　2001年12月3日(月)～12月15日(土)
　　10：00～16：00　12月8日(土)・9日(日)は休館
場所：京都工芸繊維大学・美術工芸資料館
　　京都市左京区松ヶ崎
　　京都市営地下鉄松ヶ崎駅徒歩5分
●講演
川添登（建築評論家）／永田祐三（建築家）／石田潤一郎（京都工芸繊維大学大学院教授）
●シンポジウム
パネラー／川添登、永田祐三、司会／石田潤一郎
日時　12月15日(土)14：00～17：00
場所　京都工芸繊維大学1号1階51号講義室
定員　150名（当日先着順、入場無料）
問い合わせは、京都工芸繊維大学造形工学科6号館内「村野藤吾の設計研究会」事務局（笠原一人）へ。
FAX 075-724-7605
e-mail kasahara@dad.kit.ac.jp

大阪都市景観建築賞表彰式

第21回大阪都市景観建築賞および第8回大阪・心ふれあうまちづくり賞の表彰式・記念講演会が合同で開催される。入場無料。定員500名。
と　き　2001年12月7日(金)14：00～16：30
会　場　大阪市立中央区民センター
　　大阪市中央区久太郎町1-2-27
　　TEL 06-6267-0201
●記念講演「ユニバーサル・デザインとまちづくり」
――日米障害者協会代表で、一級建築士事務所アクセスプロジェクトを主宰する川内美彦氏が、だれにも使いやすい建物やまちづくりについて提言する。

「色」ー科学と芸術の出会いー

例年通り「色」をテーマに科学・技術・芸術などの専門家が様々な切り口で討論するロレアル賞連続ワークショップが開かれる。（3回以降を掲載）
③「望遠鏡の色、顕微鏡の色」
11月30日(金)18：30～
④「東北の色、沖縄の色」
12月12日(水)18：30～
⑤「色を生きる…アジアの色、アフリカの色」
12月14日(金)18：30～
会　場　東京デザインセンター・ガレリアホール
　　東京都品川区東五反田5-25-19
参加費　一般／各回1000円、学生／無料
申込み　所要事項を記入して、e-mailまたはFAXで下記主催者へ。定員になり次第、締め切り。
　　ロレアル アーツ アンド サイエンス ファンデーション
　　e-mail　lasf@gol.com　FAX 0298-47-7985

桃山学院大学公開講座

桃山学院大学の主催で公開講座が開催され、学生、一般の人々にも参加を呼びかけている。
日時　2001年12月7日(金)11：00～12：30
場所　桃山学院大学3号棟206
　　大阪府和泉市まなび野1-1
　　泉北高速和泉中央駅・南約1.2km
演題　『泉北の今昔＝みなおそう南大阪の近代建築・スライドで見る明治・大正・昭和戦前の建築＝』
　　――南大阪の取り壊された名建築、新しく蘇った近代建築などをスライド100枚で紹介。
講師　柴田正己（明治建築研究会代表・一級建築士）
問い合わせは桃山学院大学深沢研究室（TEL 0725-54-3131）または柴田氏宅（072-236-3357）へ。

「住まいの情報発信局」開設

インターネット住情報提供協議会（会長・北畠照躬）は、中立性、信頼性を持つ住宅関連情報を発信するポータルサイト「住まいの情報発信局」を9月15日に開設した。
URL　http://www.sumai-info.jp
提供される主な情報は、住宅性能表示制度の解説、公共賃貸住宅や住宅・住宅部品等の検索、住まいに関するあらゆる知識情報、イベントや出版情報などで、一般ユーザーから住まいの専門家まで幅広く対応するものとなっている。
なお、インターネット住情報提供協議会は、㈶建築環境・省エネルギー機構、㈶ベターリビング、㈶日本建築センターなど7財団等の会員で構成されているが、会員拡大後は「住まいの情報発信局」運営協議会と名称を変更する予定である。

友田多恵子展

「友田多恵子はペーパー・アーティストで、自ら古紙を溶かして漉く。しかし、いわゆる流し漉きではなく、一種の溜漉きである。『一種の』という理由は、溜漉きは通例、パルプ状にした紙料を簀ですくい上げ、全体をゆり動かして水を切るが、彼女は簀で水を切るのではなく、自然に水を蒸発させるからである。また、染色における先染めのように、パルプ状の紙料に最初から濃淡をつけた墨を流し込む。この一連の過程を彼女は『紙をステージに触覚を顕在化させる』という」（美術評論家・木村重信氏）
会　期　2001年11月15日(木)～20日(火)
　　10：00～18：00
会　場　ライティング・コア東京　TEL 03-5600-7780
　　東京都墨田区両国4-31-17
　　JR総武線両国駅下車



DESIGN NOW, AUSTRIA



20世紀初頭にウィーンで花開いた世紀末美術、デザイン動向に目を奪われ、とくに1970年代以降のオーストリア・デザインの重要さは見失われがちである。
1970年代半ば以降のポストモダン・デザインの端緒をひらいた建築家ハンス・ホライン、1990年代に登場したユニバーサル・デザインの理念に影響を与えた理論家ヴィクター・パパネック。ヨーロッパを巡回し名古屋で開かれる本展では、ホラインやパパネックが30年前に提唱した先駆的な建築・デザイン理論が、現代のオーストリア・デザインの現場にどのように継承され、多彩な人材と独特な表現によってその理念がどのような発展的な広がりを示しているかを検証する。
会　期　2001年10月26日(金)～11月25日(日)
　　11：00～20：00　会期中無休
会　場　国際デザインセンター・デザインミュージアム
　　名古屋市中区栄3-18-1　TEL 052-265-2106
　　ナディアパーク・デザインセンタービル4階
入場料　一般300円、学生200円（中学生以下無料）

助成顕彰事業の公募

㈶日本文化藝術財団（理事長・徳山詳直、会長・川口幹夫）は、平成13年度助成顕彰事業として第9回の「日本文化藝術振興賞」（150万円）「日本文化藝術奨励賞」（100万円）および第8回「外国人留学生・研究者助成金」（100万円）の、推薦応募者、助成金受給申請者を募集している。
建築では第1回（平成6年）に妹島和世氏、第6回で宮本佳明氏が「日本現代藝術奨励賞」を受けている。
選考委員は、芳賀徹（京都造形大学学長）、大島清次（世田谷美術館館長）、榮久庵憲司（GKデザイン機構会長）、金子賢治（東京国立近代美術館）、観世榮夫（能楽師）、木戸敏郎（演出家）、酒井忠康（神奈川県近代美術館館長）、玉井賢二（メディアパークつくば常務取締役）、中村昌生（㈶京都伝統建築技術協会理事長）の各氏。
第9回日本文化藝術奨励賞の中の「日本現代藝術奨励賞」の推薦応募概略は、以下の通り。
対象者　2名以内（原則として35歳以下）
　　現代藝術の創作普及、調査研究活動においてある程度の実績があり、奨励賞を受けることにより、今後の活動がさらに期待される実技者、研究者。
受　付　2001年11月1日(木)～12月10日(月)
　　当日消印有効
賞授与　2002年3月下旬
詳細、推薦応募要項、応募用紙は、㈶日本文化藝術財団（〒160-0012　東京都新宿区南元町13-7　TEL 03-5269-0037、URL http://www.jpartsfdn.org）のホームページを参照。応募用紙はダウンロードできる。

札幌国際デザイン賞作品公募

都市計画、建築計画、環境デザインからファッションデザインまであらゆるデザイン分野から、札幌にふさわしい新鮮で魅力に満ちたライフスタイルの提案を募集している。6回目の今年のテーマは「札幌の新しいライフスタイルをデザインする」。

過去5回の受賞作品等は、ホームページ（http://www.city.sapporo.jp/shimin/design/）を参照。

応募資格　不問。個人でも団体でも応募可。

応募点数　制限なし。未発表作品に限る。

出品書類　①出品票、②デザイン・コンセプト説明書を郵便、FAX or e-mailで取り寄せる。
札幌国際デザイン賞実行委員会事務局
〒060-0001　札幌市中央区北1条西7丁目
㈳北海道未来総合研究所内
TEL 011-242-1334、FAX 011-261-4882
e-mail：design@voicenet.co.jp

出品方法　①出品票、②デザイン・コンセプト説明書、③応募作品（A1判パネルに、平面で表現。2枚まで使用可）を出品先へ提出。
出品先／日本通運㈱札幌西支店物流センター倉庫係（TEL 011-717-8850）

出品期間　2002年1月7日(月)～1月31日(木)必着

審査委員　荒井徹（札幌市立高等専門学校校長）ほか

賞の種類　大賞1点100万円、準大賞1点50万円ほか

INAXデザインコンテスト

部門	テーマ	対象	応募単位
住宅インテリア	「応募者自主テーマ」	1999年8月1日～2001年11月30日に竣工した新築、及びリフォームを行った戸建住宅（建売り含む）・集合住宅	インテリアにINAX製品1点以上を使った空間
住宅エクステリア			エクステリアにINAX製品1点以上を使った空間
テーマ部門A	（A・B共通テーマ）「ペットと共に生きる」	1999年8月1日～2001年11月30日に竣工した新築、及びリフォームを行った戸建住宅・集合住宅・施設（医療施設、介護施設等）	インテリアまたはエクステリアに該当する空間
テーマ部門B		実施現場を伴わないアイデア提案で、対象は「テーマ部門A」に準ずる	

応募締切　～2001年11月30日（当日消印有効）

審査委員　會田雄亮（陶芸家）ー委員長ー
木村誠之助（建築家）、中村好文（建築家）

応募方法　所定の応募用紙に必要事項を記載し、下記コンテスト事務局へ、資料を提出する。
INAXデザインコンテスト事務局
東京都新宿区西新宿6-5-1　〒163-1314
TEL 03-5381-7423、FAX 03-5381-7447
http:// www.inax.co.jp/

「建築100人×100冊展」作品募集

建築の持つ多様な力、建築とそれにかかわる人々の関係、建築についての思い…それらを1冊の「本」にまとめ展示する昨年に引き続いてのこの企画に、建築に関心のある人なら資格を問わず、未発表作品の応募を呼びかけている。

Archi-space2002実行委員会（実行委員長・中田誠）＋AD & Aが主催するArchi-space2002「建築100人×100冊展」では、設計プロセスでのスケッチ集、建築が見せる様々な姿の写真集、記憶に残る印象的な空間体験のドキュメント、建築の可能性をめぐる企画書等自由なテーマを設定している。

提　出　「冊子」状に綴じて「めくって読む・見る」ことができるような形にまとめる。あるいは「本」という形式についての新しい提案等も可。テーマに即していれば表現方法等は自由。ただし、作品の大きさはA3サイズ以下を基本とする。超える場合は事前連絡が必要。

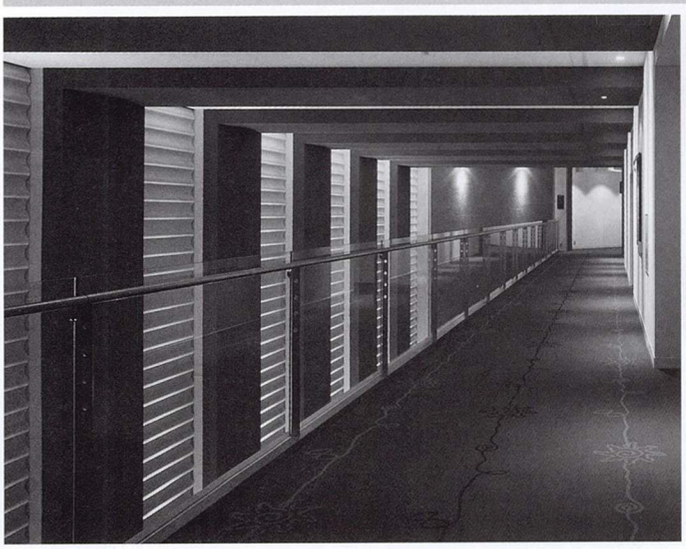
出品料　7000円（DM・会場設営代等）

申込み　応募申込用紙（電話・FAX・e-mailで請求）に必要事項を記入し、出品料を添えてAD & A galleryに2001年12月10日までに持参または郵送する。

作品展会期は2002年2月18日(月)～3月1日(金)、会場はAD & A galleryを予定している。詳細問い合わせはAD & A gallery（〒550-0003　大阪市西区京町堀1-6-12、TEL 06-6445-7733、FAX 06-6445-7735、e-mail：ada@remus.dti.ne.jp）へ。

なお、昨年の展示風景はAD & Aのホームページに掲載。(http://www.remus.dti.ne.jp/-ada)

「Asia Du Pont Antron Design Award」最優秀賞を日本初受賞





南西面外観

5階パブリックスペース

竹中工務店の設計・監理による「ホテル近鉄ユニバーサル・シティ」（大阪市此花区島屋）のインテリアデザイン（デザイン：大阪本店設計部一薄田学、下間博、山羽ひとみ）が、デュポン社の「Asia Du Pont Antron Design Award」最優秀賞を受賞した。

32年の歴史があるこの顕彰制度は、インテリアデザイン分野では権威のあるものとして知られ、デュポン社の素材によるカーペットを使い、竣工後4年以内の物件が対象となる。家具や備品も含めたトータルインテリアとしての革新性と独自性が、5人の審査員によって審査され、最優秀賞1件に絞られるが、「ホテル近鉄ユニバーサル・シティ」のインテリアデザインは、「ホスピタリティ分野」で優秀賞に、さらにトータルの審査で最優秀賞を獲得したもの。

受賞の対象となった当ホテルの4～5階のパブリックスペース、客室階の通路のカーペは深い青と黒をベースに、水しぶき、陽光、火炎を線状にあしらっている。表彰式は8月3日に香港のグランドハイアットホテルで行われた。

建築面積　1,597.85㎡（延床面積　23,995.34㎡）
構造・階数　鉄骨造、地上25階
建築主　㈱近鉄ホテルシステムズ、近畿日本鉄道㈱
施工　竹中工務店・大林組・大日本土木JV
工期　1999年12月～2001年7月

柴田正己氏、名誉博士に！

明治建築研究会や歴史的景観研究会などで近代の歴史的建造物の保存・活用を世に問い、保存運動をすすめてきた柴田正己氏が、アメリカ・ハワイ州で認可された国際大学IOND Universityから名誉博士号を授与された。

柴田氏の実績と社会的貢献が認められ、イオンド大学名誉博士推薦委員会から名誉博士に推されたもので、思いがけない出来事に柴田氏もうれしさを隠し切れない。

追　悼

日本建築協会前副会長　岡本行善先生を偲ぶ



略　歴

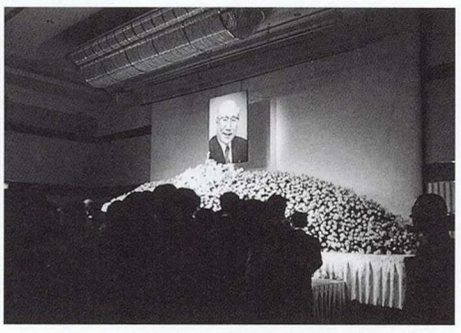
1927年３月22日	兵庫県朝来郡生野町で生まれる
17歳（1944年３月）	姫路中学（現姫路西高校）卒業
18歳（1945年８月）	第二次世界大戦終戦
21歳（1948年３月）	神戸工業専門学校（現神戸大学）建築科卒業
（４月）	安田建築設計事務所勤務
22歳（1949年３月）	芦屋市役所建築部建築課勤務
27歳（1954年11月）	松田知明と結婚
30歳（1957年３月）	昭和建築設計事務所自営
（10月）	㈱昭和建築設計事務所を神戸市生田区下山手通りにて創設 代表取締役社長に就任
31歳（1958年）	事務所を大阪市西区阿波座に移転
35歳（1962年）	㈱昭和設計事務所に社名変更
37歳（1964年）	東京オリンピック開催
40歳（1967年）	事務所を大阪市西区新町に移転
43歳（1970年）	大阪万国博覧会開催
45歳（1972年）	㈱昭和設計に社名変更
51歳（1978年）	日本建築士会連合会会長賞受賞
59歳（1986年）	大阪府知事表彰
61歳（1988年）	建設大臣表彰
64歳（1991年）	黄綬褒章受章
68歳（1995年）	阪神・淡路大震災発生
70歳（1977年）	事務所を大阪市港区弁天に移転
71歳（1998年）	取締役会長に就任 勲五等双光旭日章受章
72歳（1999年）	名誉会長に就任
2001年８月28日	永眠

公的役職の略歴

㈳大阪府建築士会理事、建築設計監理協会連合会副会長、
㈳日本建築家協会本部理事、㈳日本建築協会副会長、
大阪建築家クラブ会長、大阪西北ロータリークラブ会長などの要職を歴任。

趣味

絵画（特にパソコンによる絵画）、読書、カントリーライフ、ゴルフ



日本建築協会前副会長岡本行善先生が、平成13年８月28日（火）に永眠されました。

８月30日の近親者による密葬のあと、９月26日（水）午前11時から大阪市内の三井アーバンホテル大阪ベイタワーで、昭和設計による「お別れの会」が執り行われ、各界から1500人を超える方々が参列し、先生のご冥福を祈りました。ここに岡本先生所縁の神戸大学名誉教授・元学長、堯天義久氏からの追悼文を掲載いたしました。

鎮魂の詩

岡本君は逝きました

堯天義久
神戸大学名誉教授・元学長

日本建築協会前副会長・㈱昭和設計名誉会長岡本行善氏は、去る8月28日享年75歳で逝去されました。一昨年同社の名誉会長に退かれてからも極めてお元気に居られたのに、7月始めの突然の入院から急速に重篤になり、ちあき夫人の懸命の看護も空しく余りにも急なご逝去は、深い悲しみと痛恨の至りであります。

岡本さんは、神戸工業専門学校（現神戸大学）建築科で今は亡き永沢毅一、滝沢真弓、野地俌左、伴潔の先生方の薫陶を受けて昭和23年卒業し、昭和32年に同窓で生涯の同志の林唯夫氏（元昭和設計副社長）など数名で㈱昭和建築設計事務所を創設し代表取締役社長に就任され、爾来44年に亘り同社を今日の昭和設計に育てあげ、つねに社会貢献を標榜し優れた数々の業績を挙げてこられました。

「誰でも入ることができ、誰もが社長になり得る。そんな事務所を目指す」が明るい開かれた事務所への創設の精神でした。

岡本さんは、アーキテクトやスペシャリスト個人が自主創造的に活動し感性と能力を高めながら同時に組織をいかに活性化するかという組織事務所のあるべき姿について、根源的な「個と全」の哲学的命題に遡っての思索を重ねて、その帰結がホロンの理念に基づく組織、経営であったと思います。そして更にそれを踏まえて各チームを特化型に再編成強化するなど、こうした真摯な姿勢が創造的で感性豊かな多くの才能が育つことにつながったと思います。

作品の質を高めて、優れた建築と人間環境づくりに、常に社会貢献の役割を担っているとする自覚に基づいた設計姿勢による作品業績は、なみはやドームや長居陸上競技場にみる緊張感溢れるスポーツ施設や、例えば文化パルク城陽のような感動と賑いの文化施設、生命が吹き込まれたような宝塚花のみちや新しい都市空間の六甲アイランド、早くから力を注いできた数々の医療・福祉施設や環境施設など広汎に亘っている。ゴミ処理、水処理などの都市活動の終末施設や、人間の終焉施設の葬儀場など、迷惑、禁忌施設として片隅に追いやられ機能性の充足だけに終わっていたかのような多くの環境施設に世に訴える意匠性を与え新しい価値観の息吹きを吹き込んできた業績は高く評価されましょう。フンデルトバッサ氏との協同のゴミ焼却舞洲工場などは、環境への関心の高まりを訴えながらも子供達の夢の城を彷彿とさせて楽しい。また、震災復興は建築家の職能のうちでの最たるものであるとして、阪神大震災の翌日からの被害建物などの公的な調査・復旧に全力を挙げて協力し、復興基準づくりなど組織事務所でなくてはできないような活動を率先指揮したのも記憶に新しい。

社業のほか、建築設計監理協会連合会副会長など多くの建築諸団体の要職に就かれ、これらの維持発展と建築界に尽くされた功績は著しいものがあります。また大阪西北ロータリークラブ会長や高橋慶夫氏や山根正次郎氏などを混えた大阪クラブの月例昼食会のお世話など、岡本さんの交友関係の巾広さがうかがわれます。

また母校を愛された岡本さんは、姫路中学、神戸大学工学部同窓会の会長を親身になって務め、神戸大学建築奨学会を設立するなど建築を志す若い人々の育成にも力を尽くされました。

趣味豊かな氏は絵画にも長じ最近はパソコンによる抽象空間に遊ばれ、大阪建築家クラブよ・ぎ展に病床からの三点が最後の出展となったのは残念でならない。ゴルフや週末のちあき夫人と山荘馬酔木亭での四季のカントリーライフを楽しみにして居られたのにそれも叶えられなくなったのも悔やまれます。

思えば、岡本さんは建築家として、かつ経営哲学の実践者であり、暖かい人情味溢れる得難い素晴らしい人でありました。

岡本さんが育て上げられた總合力ある昭和設計には、三宗司郎社長を始め数多くの優秀な才能が育っており、21世紀をリードするに違いないと期待されます。

最後に、鎮魂の一片の詩を捧げたく思います。岡本さん、安らかにお眠り下さい。

鎮魂の詩「岡本君は逝きました。」

人にやさしい建築と
優れた仕事をやり遂げて
寡黙に真摯に誠実に
多くの人に尽くすなど
燃やし果たしたかのように
いま、幽明を別にして
元気な頃の想い出を
岡本君は逝きました。

自然にやさしい環境の
豊かな社会を創ろうと
力の限り働いて
いのちの炎と情熱を
岡本君は逝きました。
ホロンの理念と業績と
残して去って逝きました。

日本建築協会

月間の動き

【平成13年 9 月分】

21世紀の協会検討委員会

第２回「協会の理念・会勢に関する」分科会
11日　３時～５時10分・於本会会議室
出席者　片倉委員長ほか５名
議　題　「協会21世紀を考える委員会」答申の具体的実効策について
第２回「建築と社会に関する」分科会
13日　３時～５時15分・於本会会議室
出席者　片倉委員長ほか４名
議　題　「協会21世紀を考える委員会」答申の具体的実効策について
第２回「協会の機構・運営に関する」分科会
17日　４時～６時25分・於本会会議室
出席者　片倉委員長ほか４名
議　題　「協会21世紀を考える委員会」答申の具体的実効策について
第３回　21世紀の協会検討委員会（全体会議）
26日　３時～５時15分・於本会会議室
出席者　川口副会長ほか12名
議　題　「協会21世紀を考える委員会」答申の具体的実効策について

編集委員会

第６回編集委員会
５日　６時～８時・於本会会議室
出席者　宮田委員長ほか９名
議　事（1）10月号「緊張」特集経過報告
（2）11月号「私の空間作法」特集経過報告
（3）12月号「第48回青年技術者」特集・「NHK大阪新放送会館・大阪市立新博物館」特集経過報告
（4）収支状況報告
第６回広告企画小委員会
５日　４時～５時40分・於本会会議室
出席者　宮田委員長ほか７名
議　事（1）10月号「緊張」特集・「都市基盤整備公団」特集経過報告
（2）11月号「私の空間作法」特集経過報告
（3）作品作風関係報告
（4）独自特集企画
（5）収支状況報告
第６回設備分科会
４日　６時～７時30分・於本会会議室
出席者　近藤国夫幹事ほか２名
議　事（1）新シリーズの企画
（2）「設備の頁」の企画
（3）来年の特集テーマ
第６回法令分科会
11日　２時～４時25分・於本会会議室
出席者　中島幹事ほか５名
議　事（1）「法令コーナー」の企画
（2）来年の特集
第７回構造分科会
14日　６時～７時30分・於本会会議室
出席者　木下幹事ほか６名
議　事（1）10月号「緊張」特集経過報告
（2）「構造の頁」の企画
第５回施工材料分科会
27日　５時～６時30分・於本会会議室
出席者　太刀川幹事
議　事　来年度特集について
第６回作品作風小委員会
27日　７時～９時30分・於本会会議室
出席者　赤木副委員長ほか７名
議　事（1）作品の選定
（2）作品の掲載状況並びに掲載予定の報告
（3）「gallery」掲載報告・予定
（4）「Sketch Book」欄の掲載予定
（5）11月号会員特集号会告掲載について

事業委員会

第４回事業委員会
28日　６時～７時30分・於本会会議室
出席者　川村委員長ほか11名
議　事　各小委員会からの報告と検討
第５回若い会員の集い小委員会
４日　７時～９時・於本会会議室
出席者　杉本副委員長ほか３名
議　事（1）今後の企画について
（2）「30's EYE　出版」について
（3）「アアルト住宅展」について
第４回情報小委員会
12日　６時～７時45分・於本会会議室
出席者　天野副委員長ほか７名
議　事　今後の予定について
第４回見学会小委員会
13日　６時～７時30分・於本会会議室
出席者　福島副委員長ほか６名
議　事　実施報告と今後の予定について

出版委員会

第５回出版委員会
20日　６時～７時・於本会会議室
出席者　山田委員長ほか８名
議　事（1）＜プロのノウハウ＞と特装本の経過報告
（2）今後のテーマと執筆者選定
第３回結露のトラブルと解決策小委員会（仮称）
６日　６時～７時30分・於本会会議室
出席者　岩崎副査ほか５名
議　事　編集の考え方（進め方）について

見学会

第６回見学会・奈良県立万葉文化館
29日　１時～４時30分　　参加者・16名
「文化遺産としてのモダニズム建築」関西展
・藤井厚二「聴竹居」見学会　　参加者・46名
15日　１班12時～１時　２班１時30分～２時30分
３班３時～４時
・吉阪隆正「浦邸」見学会　　参加者・20名
22日　１班２時～３時　２班３時～４時

講演会

「文化遺産としてのモダニズム建築」関西展記念講演会
石田潤一郎＋東孝光＋佐野吉彦
「関西のモダニズム」建築を語る
17日　６時30分～９時15分・於大阪ガスビル
参加者　257名

青年技術者選考委員会

第48回青年技術者選考委員会
18日　１時～５時・於本会会議室
出席者　宮田選考委員長ほか10名
議　事　第48回青年技術者選考

建築クラブ

第352回朝食会
11日　８時～９時30分・於大阪全日空ホテル
演　題　「シドニーオリンピック水泳の総括とアテネへの展望」
講　師　奥田精一郎氏（イトマンスイミグスクール名誉会長）
参加者　32名

入会者(敬称略)

〔個人会員12名〕

青柳　恒雄（大成建設㈱）	荒井　庸行（㈱大林組）	安藤　雅敏（㈱大林組）
大住　和正（㈱大林組）	中山　保（㈱大林組）	石黒　敬史（鹿島建設㈱）
笠原　恒孝（鹿島建設㈱）	小林　浩二（㈱大建企画設計）	駒井　貴之（㈱藤木工務店）
鳥山　信治（東陶機器㈱）	野中　康司（㈱竹中工務店）	三谷　直樹（㈱東畑建築事務所）

◀会員の訃報
藤原　吉昭氏　平成13年９月20日ご逝去

日本建築協会役員会務分掌（敬称略）

名誉会長	佐野　正一／㈱安井建築設計事務所	
会　　長	金多　　潔／京都大学名誉教授	
副 会 長	川口　順弘／㈱竹中工務店	企画担当
〃	佐野　吉彦／㈱安井建築設計事務所	編集・研修担当
〃	芝野　博文／大阪ガス㈱	総務・会計・事務局担当
〃	髙木　嗣郎／㈱大林組	会勢・事業担当
〃	成尾　克彦／㈱きんでん	会勢・事業担当
〃	輿謝野　久／㈱日建設計	編集・研修担当

理事（○印常任理事）

（総務） 6名
- 大林　芳郎／㈱大林組
- 恩庄　二郎／大阪化工㈱
- 栗原　信英／栗原工業㈱
- 鈴木　映男／㈶日本建築総合試験所
- ○伴　　昭秀／㈱西原衛生工業所
- ○松村　雄吾／㈱松村組

（会計・決算） 5名
- 揚野　孝輔／㈱間組
- 奥村正太郎／㈱奥村組
- ○小林　四郎／住友電設㈱
- 清水義一郎／㈱清水工業所
- ○松丸　哲也／豊國建設㈱

（編集・出版） 10名
- ○井上　　豊／㈶日本建築総合試験所
- 内田　直樹／神戸大学
- ○岡田　聿之／㈱東畑建築事務所
- ○小島　　雄／鹿島建設㈱
- 竹中　統一／㈱竹中工務店
- 畠山　祐治／㈱シンコー
- 広原　盛明／龍谷大学
- ○松村　慶三／㈱浦辺設計
- ○宮田　照久／㈱昭和設計
- ○山田　　修／修建築事務所

（会勢） 12名
- 淺沼　誠夫／㈱淺沼組
- 久米　宏和／㈳大阪建設業協会
- 鴻池　一季／㈱鴻池組
- 古林　敏郎／広島工業大学（非常勤）
- ○小宮　三辰／㈱安井建築設計事務所
- 菅谷　　節／ダイダン㈱
- ○錢高　善雄／㈱錢高組
- 遠松　展弘／㈱日建設計
- 仁井　　正／大晃設備㈱
- ○浜辺　鶴志／戸田建設㈱
- 原田孝太郎／原田セメント化工㈱
- 村上謙一郎／清水建設㈱

（事業） 7名
- 井上　利美／㈱熊谷組
- ○川村　眞次／㈱関西都市整備センター
- 北山　啓三／大阪市住宅局
- 近藤　正文／都市基盤整備公団
- ○白水　秀俊／㈱フジタ
- 仙田　良行／㈱カンダン
- 藤木　鐵三／㈱藤木工務店

（研修） 7名
- 岩橋　貞雄／八千代電設工業㈱
- 氏原　完典／大成建設㈱
- ○片倉　健雄／元　近畿大学
- ○永原　義夫／王建工業㈱
- 松原　徹雄／大阪府建築都市部
- 三宗　司郎／㈱昭和設計
- ○和田　克朗／㈶日本建築センター

常務理事	杉山　泰生	
（監事）	本郷　　聰／㈱松村組	前田　隆司／㈱前田商会

日本建築協会評議員（敬称略）

議　長　三木　敏男（サングローブ）
副議長　得田芳宏（松村組）

本部所属評議員

（技術部門）
- 下村　健治（大阪青山短期大学）
- 中川　　徹（清水建設）
- 平岡　　博（大阪市住宅局）
- 三木　敏男（サングローブ）
- 村上幸三郎（村上デザイン事務所）
- 山形　政昭（大阪芸術大学）

（総合部門）
- 大塚日出夫（淺沼組）
- 上田眞之（藤木工務店）
- 梅原哲郎（三井建設）
- 塩脇昭司（錢高組）
- 高木敏文（鉄建建設）
- 谷　　哲司（奥村組）
- 得田芳宏（松村組）
- 任田　　勉（西松建設）
- 林　　憲三（大日本土木）
- 日置紘太郎（大林組）
- 松田利男（戸田建設）
- 宮崎靖司（鴻池組）
- 宗田奎二（竹中工務店）
- 栁澤淳右（安藤建設）
- 吉川幹生（間組）
- 辻本　　健（辻本工務店）
- 西田隆昭（西田工業）
- 前野　　脩（あめりか屋）
- 松村照平（モリタ建設）

（電気部門）
- 浅海伸之（浅海電気）
- 嘉納秀一（三宝電機）
- 谷　　一成（近畿工業）
- 矢野卓生（中央電設）

（管工部門）
- 神木宣夫（須賀工業）
- 古原直人（毎日工業）
- 城口俊雄（大阪城口研究所）
- 田中達夫（精研）
- 三島良樹（朝日工業社）

（建材部門）
- 打垣内尚雄（東洋シヤッター）
- 志田　　稔（ゼネラル化成）
- 立野純三（ユニオン）
- 月城則男（新東洋合成）

支部所属評議員

（京都支部）
- 神谷　　治（神治屋）
- 井川栄一（元京都市職員）
- 森島照雄（森島建築設計事務所）
- 山田昌次（花豊造園）

（中国支部）
- 井上弘美（アオケン）
- 清田剛一（清田工務店）
- 嶋津孝之（広島大学名誉教授）
- 福永敏男（福永建設）

（東海支部）
- 谷　　淳之介（東畑建築事務所）
- 寺本英一（鴻池組）
- 福田泰造（福田泰造建築事務所）
- 松本壮一郎（愛知工業大学）
- 盛田輝勇（丸善深見建装）
- 森田富士男（シード）
- 林　　金之（愛知工業大学）
- 芳山明久（元INAX）

（和歌山支部）
- 井村眞哉（井村建築設計事務所）
- 北山泰秀（北山組）

日本建築協会支部長（敬称略）

京　都　望月秀祐（モチケン・コーポレーション）
中　国　古林敏郎（広島工業大学（非常勤））
東　海　小宮三辰（安井建築設計事務所）
和歌山　東野信義（東野建築設計事務所）

資料●㈳日本建築協会役員名簿

平成13年度

日本建築協会常設委員会委員

平成13年４月25日開催の常任理事会において、各常設委員会委員を委嘱いたしました。

（敬称略　◎印委員長　○印副委員長　△印幹事　☆顧問　　職場名は略称）

■編集委員会

会誌「建築と社会」の企画・編集

◎宮田照久（昭和設計）

■特集小委員会

計画分科会

（計画系）

伊縫憲幸（日建設計）
梅田善愛（竹中工務店）
小浦久子（大阪大学大学院）
鈴木克彦（京都工芸繊維大学大学院）
田中直人（摂南大学）
紅谷昇平（三和総合研究所）
細田浩史（大阪市計画調整局）
松田奈緒子（京都工芸繊維大学大学院生）
松本正行（阪急電鉄）
吉村英祐（大阪大学大学院）

（建築計画系）

江副敏史（日建設計）
△菅野忠司（鹿島建設）
児玉敬志（大建設計）
小林優子（UR設計）
佐藤不二男（大阪大学大学院）
桜井則雄（大林組）
迫淳海（清水建設）
笹村欽也（東畑建築事務所）
塚本史郎（鴻池組）
所千夏（安井建築設計事務所）
野田隆史（竹中工務店）
服部光宏（大成建設）

（インテリア・住宅系）

石川佳子（辻中）
加藤力（京都工芸繊維大学大学院）
北浦かほる（大阪市立大学）
小梶吉隆（竹中工務店）
佐藤勝紀（都市基盤整備公団）
田中浩介（積水ハウス）
高野直樹（安井建築設計事務所）
△西田和子（大林組）
ペリー史子（大阪産業大学）
本山仁（松下電工）

構造分科会

大氏正嗣（デザイン・構造研究所）
金田興熙（北條建築構造研究所）
田渕勝道（竹中工務店）
△木下隆嗣（東畑建築事務所）
佐治明志（大林組）
白沢吉衛（日建設計）
住田隆二（キンキ総合設計）
田中剛（神戸大学）
竹内秀紀（安井建築設計事務所）
松村和夫（松村構造計画）
向井洋一（大阪大学大学院）
吉川真次（鴻池組）

設備分科会

梶井宏修（近畿大学）
河井康人（関西大学）
河津隆之（河津隆之事務所）
△近藤国夫（きんでん）
近藤正一（大阪市住宅局）
田ノ畑好幸（竹中工務店）
西岡道雄（大阪市住宅局）
桝井貴廣（総合設備コンサルタント）
村上幸三郎（村上デザイン事務所）
谷津和久（新菱冷熱工業）
山根敏和（安井建築設計事務所）

施工材料分科会

植田実（清水建設）
小椎八重猛（積水ハウス）
竹中秀文（大林組）
△太刀川丈爾（竹中工務店）
能美敏男（鹿島建設）
増田信久（大阪府建築都市部）
吉田正友（日本建築総合試験所）

法令分科会

伊勢照男（京都府建築指導課）
薄木三男（大阪市建築指導部）
衣笠春幸（兵庫県建築指導課）
黒木省二（京都市建築指導部）
△中島和也（神戸市建築指導部）
森下嘉弘（大阪府建築指導課）

■作品作風小委員会

○赤木隆（日建設計）
淺尾宏（大阪府建築都市部）
朝倉一晃（兵庫県住宅整備課）
居内章夫（徳岡昌克建築設計事務所）
井上雅祐（大林組）
川上比奈子（夙川学院短期大学）
倉渕奈千子（田中啓文総合建築研究所）
寺岡宏治（安井建築設計事務所）
中村文紀（東畑建築事務所）
林孝司（清水建設）
前川治彦（前川治彦建築研究所）
増田敬彦（住友信託銀行）
増田俊哉（竹中工務店）
山田俊紀（昭和設計）

■会員企画小委員会

稲木裕子（大阪建設専門学校）
大谷由紀子（奈良女子大学大学院生）
河崎敦子（竹中工務店）
清水麗子（デザインオフィス・レイ）
○髙岡伸一（昭和設計）
髙田光雄（京都大学大学院）
辰巳清一（日本設計）
塚口明洋（塚口明洋建築研究室）
辻川ひとみ
福田瑞穂（大建設計）

■広告企画小委員会

大迎敏樹（松村組）
小幡義明（鹿島建設）
小山昭（東畑建築事務所）
斉藤治久（昭和設計）
田渕博昭（大林組）
千葉耕作（竹中工務店）
○林一彦（大成建設）
平松勉（鴻池組）
古畑健一（清水建設）
前田衛（日建設計）
渡邊浩文（安井建築設計事務所）

■事業委員会

見学・講演・説明・展示・映画・懇親会・若い会員の集いなどの企画および実施

◎川村眞次（関西都市整備センター）
☆多井幸男（多井建築研究所）
○伊藤武夫（大林組）
○原見昌志
○南次郎

■見学会小委員会

○福島靖夫（鹿島建設）
△伊藤博
△小林一成（鴻池組）
△坂田雄二（竹中工務店）
△坂本良高（大林組）
△福家敬（鉄建建設）
伊東史郎
久保田秀男（日建設計）
熊野健司（大阪市住宅局）
塘伸夫（東畑建築事務所）
松浦剛士（清水建設）
松本剛（大阪府建築都市部）
杢谷通夫（大成建設）
森田芳次（安井建築設計事務所）

■情報小委員会

○天野直樹（竹中工務店）
△小笹光彦（ランテック計画事務所）
△大井昇二（大林組）
△酒井重治（大阪建築防災センター）
△瀬戸川葆（関西住宅品質保証）
△塚田静春（きんでん）
△中西稔（ジェイアール西日本）
奥村進（高松建設）
紙西孝彦（昭和設計）
掃部彌（大阪市建設局）
木場公典（大阪府建築都市部）
下前裕一（東畑建築事務所）
下村健治（大阪青山短期大学）
宮内宏（宮内商会）

■若い会員の集い小委員会

○杉本真一（大阪芸術大学）
△石井太志（昭和設計）
△阪田弘一（京都工芸繊維大学大学院）
△樋上新治（都市プランナーズオフィス）
△山隈直人（Kt一級建築士事務所）
△吉武宗平（ヘッズ）
△米井寛（東畑建築事務所）
有田吉弘（阪急電鉄）
岡田耕治（日建設計）
河合哲夫（竹中工務店）
小林広英（建築研究協会）
佐々木晴子（大阪市住宅局）
島隆男（島隆男建築研究所）
杉山美納（東畑建築事務所）
龍野豪利（大阪市教育委員会）
田畑重明（坂倉建築研究所）
松隈章（竹中工務店）
廻はるよ（京都工芸繊維大学大学院生）
山田和弘（N.Y.総合事務所）

■教育委員会

建築教育についての調査・研究、講習会の企画・実施ならびに工高生デザインコンクールなどの企画および実施

◎片倉健雄（元・近畿大学）

■講習会小委員会

○藤井孝晏（大林組）
江崎誠（松村組）
佐貫久（神戸大学大学院生）
白塚芳郎（鴻池組）
関川詞之（大成建設）
田中克治郎（錢高組）
本多恭司（竹中工務店）
室谷和平（清水建設）
森啓亮（淺沼組）

■工高生教育小委員会

○和田康由（大阪市立都島第二工業高校）
△植松清志（大阪人間科学大学）
△三宅育男（大阪府立布施工業高校）
大西正宜（大阪府立西野田工業高校）
景山公三（大阪府立西野田工業高校）
小池啓夫（日建設計）
小久保到（兵庫県立尼崎工業高校）
小山将史（堺市立工業高校）
神野茂（大阪府立西野田工業高校）
武田雄二（愛知産業大学）
出雄隆（大阪市立工芸高校）
永島敏郎（安井建築設計事務所）
山岡徹（堺市立工業高校）
吉井和男（東畑建築事務所）

■出版委員会

建築に関する図書の企画・編集・刊行、「建築技術選書」特装版および＜プロのノウハウ＞の企画・刊行、ならびに講座の企画・実施

◎山田修（修建築事務所）
○上原正行（竹中工務店）
荒川治徳（荒川建築技術コンサルタント）
安達英俊（安達英俊建築研究所）
井上まるみ（住まいの研究室）
植村典人（大阪府立今宮工業高校）
岡田邦弘（大林組）
岡田伸子（岡田建築設計事務所）
神田暢子（北條建築構造研究所）
楠本照男（昭和設計）
小島枝春（松村組）
田中正司（鹿島建設）
谷川康信（大阪工業技術専門学校）
中川徹（清水建設）
仲本尚志（竹中工務店）
藤井亮介（大成建設）
安田孝（摂南大学）

■建材委員会

建材コンサルタント・新建材の紹介

◎和田克朗（日本建築センター）
井上享（藤木工務店）
石本政美（都市基盤整備公団）
大坪義和（近畿地方整備局）
菅知史（鹿島建設）
川上宏伸（大林組）
河津龍大（日本建築総合試験所）
熊谷喜蔵（大阪府建築都市部）
小島枝春（松村組）
小谷陽次郎（日建設計）
近藤達夫（大阪技術振興協会）
阪本重信（大成建設）
徳山正司（錢高組）
轟泰輔（アーキアルファ設計）
西出浩（大建設計）
西村正義（NTTファシリティーズ）
伯耆紳（安井建築設計事務所）
松村勝実（清水建設）
松本章（東畑建築事務所）
元木貞次
森川務（竹中工務店）
森本育宏（奥村組）
山本高広（住友大阪セメント）

■企画委員会

協会の今後の運営を検討、審議。

◎片倉健雄（元・近畿大学）
小林四郎（住友電設）
鈴木映男（日本建築総合試験所）
髙木嗣郎（大林組）
松村慶三（浦辺設計）
三木敏男（サングローブ）
和田克朗（日本建築センター）

■IT検討委員会

◎遠松展弘（日建設計）
服部光宏（大成建設）
川村眞次（関西都市整備センター）
佐貫久（神戸大学大学院生）
岡田邦弘（大林組）
和田克朗（日本建築センター）

資料●㈳日本建築協会委員名簿

空調・衛生・クリーンルーム設備
（設計・施工）

朝日工業社

本社・本店　東京都港区浜松町1-25-7　電話03(3432)5711
大阪支社　大阪市淀川区加島1-58-59　電話06(6302)2270
支　　店　北海道/東北/北関東/横浜/名古屋/中国/九州

商品は空気です。



熱と空気のエンジニア
株式会社

大気社

●営業種目
空気調和設備　給排水衛生設備　塗装設備　公害防止関連設備の設計・製作・施工

本社・東京本店　東京都新宿区西新宿2-6-1　☎03—3344—1851(大代)　大阪本社☎06—6448—3603(代)
大阪支社 ☎06—6448—5851(代)　名古屋支店 ☎052—211—1535(代)　中国支店 ☎082—247—5541
九州支店 ☎092—431—2147(代)　営業所：北関東・横浜・神戸・京都・岡山・四国

電気・空調・衛生・防災・産業廃水設備
設　計　施　工

ダイダン株式会社

本店・大阪本社　〒550-0002 大阪市西区江戸堀1丁目9番25号　電話(06)6441-8231
東京本社　〒102-0071 東京都千代田区富士見2丁目15番10号　電話(03)3261-8231
支　　社　名古屋・福岡
支　　店　札幌・仙台・新潟・大宮・千葉・横浜・金沢・京都・神戸・天理・岡山・広島・高松・熊本
営業所　帯広・函館・青森・秋田・盛岡・前橋・長野・静岡・豊田・津・富山・福井・徳山・松山・高知・北九州・鹿児島・那覇
出張所　旭川・福島・川崎・松江・徳島・下関・長崎・大分・宮崎
海外支店　シンガポール・ホンコン
技術研究所　〒354-0044 埼玉県入間郡三芳町大字北永井390番地　電話(0492)58-1511

より快適な水環境をめざして
給排水衛生設備，冷暖房設備，消火設備の設計，施工

株式会社西原衛生工業所 大阪本店

大阪本店　〒531-0071 大阪市北区中津六丁目8番4号
TEL 06-6458-3628(代表)
本　　社　〒108-0023 東京都港区芝浦三丁目6番18号
TEL 03-3452-7441(代)
支　　店　札幌・東北・新潟・東関東・横浜・名古屋・九州

空気調和設備
給排水設備
電気設備

産業設備
水処理施設
環境施設

三機工業株式会社

取締役社長　宅　清光
常務取締役関西支店長　本木　満

関西支店　大阪市中央区北浜2—2—21　電話 06(6202)7554
本　　社　東京都千代田区有楽町1—4—1　電話 03(3502)6103
支　　店　北海道・東北・関東・千葉・横浜・北陸・名古屋・京都・神戸・四国・中国・九州

人と都市の快適な環境をつくります

営業種目 設計・施工・監理

●電気設備
受変電・幹線
動力・制御装置
電話、放送、インターホン
防犯、防災
中央監視制御
システム計装

●空調・給排水・衛生設備
空気調和
工場配管
水処理
コージェネレーション
クリーンルーム

●プラント
プラント計装
システムエンジニアリング

●情報通信設備
情報通信ネットワーク
情報処理
通信システム
放送システム

●電力流通設備
受変電
架空送配電
地中送配電

まちと暮らしにあふれるクリエイティブカンパニーをめざす。

住友電設株式会社

大阪本社 〒550-0011 大阪市西区阿波座2-1-4 ☎(06)6537-3400
東京本社 〒105-0014 東京都港区芝2-2-17 ☎(03)3454-7311

空気調和設備
衛生設備 設計施工

三建設備工業株式會社

大阪支店　大阪市北区紅梅町3番5号　電話(6352)1131(代)
本　　社　東京都中央区日本橋蠣殻町2—22　電話(3667)3431(大代)
支　　社　名古屋・仙台・札幌・広島・福岡・金沢・新潟・横浜

CHOYO

人がいる多彩なフィールドで、
新しい限界に挑戦しています。

電気設備設計施工

朝陽電気株式会社

代表取締役　山本貴士

本　　社　〒530-0005 大阪市北区中之島三丁目2-4(朝日ビル)
TEL 06(6385)1361(代)　FAX 06(6385)1050

空気調和・衛生設備・設計施工

株式会社三晃空調

本　　社　大阪市北区西天満3丁目13番20号　電話06-6363-1671
東京本店　東京都新宿区西新宿　新宿住友ビル　電話03-3344-7911
大阪本店　大阪市北区西天満3丁目13番20号　電話06-6363-1371
支　　店　仙台・横浜・名古屋・京都・神戸・広島・福岡

電気設備工事設計施工

東光電気工事株式会社
関西支社

取締役支社長　伊藤義信

大阪市中央区高麗橋4丁目3番7号　電話大阪(6202)0325～9番
本　　社　東京都千代田区西神田1丁目4番5号
支　　社　北海道・東北・丸ノ内・新宿・神奈川・東関東・北関東・中部・九州

空調衛生・冷凍冷蔵・地盤凍結
よりよき環境へ技術で挑む

株式会社精研

本　　社　大阪市中央区瓦屋町2丁目11番16号(オートセンタービル1・2階)
〒542-0066 電話 大阪 (06) 6768—5031代表
メンテナンス　電話　大阪（06）6768—1651代表
東京支社　東京都文京区小石川1丁目12番14号(日本生命小石川ビル7階)
〒112-0002　電話 (03) 5689—2351代表

電気設備設計施工

株式会社三興社

代表取締役社長　上田正雄

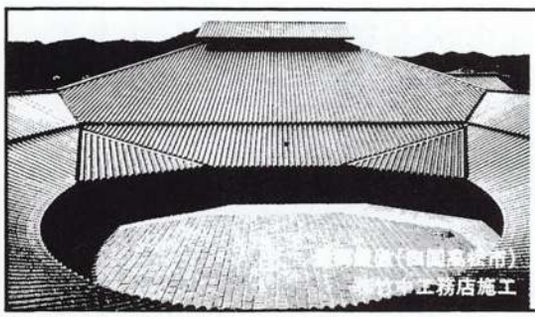
本　　社　大阪市中央区北浜3—6—13（日土地淀屋橋ビル）
電　話　06（6205）3671（代）
支　　店　東京都中央区日本橋茅場町2丁目17番3号
電　話　03（3666）1478（代）
営業所　堺・泉州・泉南・滋賀

OKUJU
スペース クリエイター
建築に革命をもたらした技術がある
「大規模天井無足場工法」
内外装創作パネル・システム天井・間仕切
株式会社 オクジュー
本　社
大阪市北区西天満5丁目3番7号 〒530－0047
TEL(06)6312－4131　FAX(06)6312－7998
東京・九州・横浜・名古屋・南九州・京都

学校建築のトータルアドバイザー
二葉工業株式会社
黒　板・掲示板・家　具
電動黒板装置・サイン・スクリーン
〒547-0001 大阪市平野区加美北3－4－5
TEL06(6792)5858　FAX06(6792)2810

＊奉仕感謝の店
タイル及び規格石一式施工
株式会社 川岸窯業商店
本　社　大阪市西区西本町1の13の33
TEL.06－6532－0641(代表)
FAX.06－6535－5181
天理営業所　天理市丹波市新町49

●情報処理●企画・制作●編集●画像処理●印刷・製本
人と技術をクリエイティヴで結びます
日本データネット株式会社
本　社 〒530-0043 大阪市北区天満1-1-10　TEL.06-6352-7502　FAX.06-6355-2714
制作部 〒530-0043 大阪市北区天満1-9-19　TEL.06-6352-0943　FAX.06-6355-5533
印刷工場 〒530-0043 大阪市北区天満2-5-15　TEL./FAX.06-6352-1551


〒556-0024
大阪市浪速区塩草一丁目二番三号
ナニワ瓦株式会社
あらゆる屋根工事の相談は、
ファックス 六五六一～七四五四
六五六一～七四一六

Digital Pri-Press
AOBA PRINTING CO.,LTD.
代表取締役社長 依藤孝行
青葉印刷株式会社
〒534-0027 大阪市都島区中野町2丁目10番11号
Phone.06-6351-5428 Fax.06-6351-5299

デンカCSAファミリー製品
●デンカCSA（膨張性混和材）　コンクリートのひびわれ防止に
●デンカタスコン（グラウト用無収縮材）　鉄骨ベース、逆打部の充填モルタルに
●デンカキューテックス（止水・補修用急硬セメント）　コンクリート躯体の漏水補修に
●デンカES（土質安定用急硬材）　地盤補強用薬注入
●デンカΣ1000（製品用超高度混和材）　コンクリートパイルの早期出荷とハイモメント製造用に
電気化学工業株式会社
近畿地区販売店
浜宗産業株式会社
TEL 本社・京都・網野（07727）2－2220
舞鶴（0773）76－0133
金森藤平商事株式会社
TEL 大阪（06）6332－6861
TEL 東京（03）3272－8501
小浦産業株式会社
TEL 大阪（06）6443－6181
光洋物産株式会社
TEL 大阪（06）6252－6000
東郷化成株式会社
TEL 滋賀・守山（0775）83－2381
TEL 大阪（06）6877－1581

日本建築協会企画・販売

出版図書一覧

1917年3月に創設された日本建築協会（当時・関西建築協会）は、すでに昭和初期には大阪近辺で住宅博覧会や建築講演会を開く一方、当時は入手しにくかった建築の情報を図書の出版という形で会員に提供していた。

＊

以後、創立周年記念事業として、その時代の動きをとらえて単行本を出版している。

50周年、60周年、70周年、そして80周年に、図書の出版が企画され、現在も継続して発行・販売されている出版物は、以下のとおり。

＊

購入希望者は、㈳日本建築協会事務局（TEL06－6348－0635、FAX06－6348－0634）まで。

日本建築協会創立60周年記念事業

建築技術選書

A5判・130頁～160頁　発行:学芸出版社　本体価格¥1,200～¥1,400

1 茶室の話　岡田孝男
3 マイコンによる構造設計のすすめ（改訂版）　魚木晴夫
5 すまいの語録　茶谷正洋
7 構造計画とやさしい力学1　須賀好富
8 建具の知識と意匠　山片三郎
9 エレベータ・エスカレータ 立体駐車場　木村利雄
10 構造計画とやさしい力学2　須賀好富
13 医院・診療所の計画と設計　池田有隣・船越暉由
14 設計のコンピューター手法　飯塚英雄
16 石垣と石積壁　窪田祐
17 基礎と地盤の手ほどき　中堀和英
18 ショッピングセンターの計画　西脇顕正
19 住宅設計とインテリア　福岡喜久雄
21 住宅の家具　光藤俊夫
23 設備技術者のための建築再入門　光安義光
24 鉄骨構造の話　金多潔・甲津功夫・西沢英和
26 建物と地震災害　竹内吉弘・島田耕一
28 建築金物の知識　立野一郎
30 住宅三備心得帳　平田純一
31 住宅のエレクトロニクス　監修　小林郁
32 建築塗装の手引き　児島修二
33 建築式典の実際　若林嘉津雄
34 建築設計と高齢者・身障者　吉田あこ
36 日本壁　山田幸一
37 身近な耐震設計法　前川陽一
38 住宅の照明　監修　大島博
39 建築を志す人びとへ　日本建築協会出版委員会
特装本 火災安全学入門　岡田光正

選書シリーズは、在庫図書を掲載

日本建築協会創立60周年記念事業「建築技術選書」姉妹篇

〈プロのノウハウ〉シリーズ

四六判2色刷り　発行:学芸出版社　本体価格¥1,600～¥2,500

TQCから見た建設業　荒木陸彦
躯体工事監理のチェックポイント100　須賀好富
空調設備のトラブル50　建築設備トラブル研究会
衛生設備のトラブル50　建築設備トラブル研究会
現場マンのアイデア発想　合原一夫
建築基準法の実際　矢吹茂郎
ニュー組積建築のすすめ　福島孝之　他
建築物の消防法を読みこなすコツ　高木任之
鉄筋工事・本音の現場学　荒川治徳
建築基準法の難解条文を読みこなすコツ　高木任之
工業化住宅・考 これからのプレハブ住宅　松村秀一
鉄骨工事の現場学　石田満商
建築紛争の実際　岡本辰義
仕上工事監理のチェックポイント　日建設計監理業務研究会
ゼロ災への道 建設現場の安全管理活動　表　一郎
木造住宅のしくみ 在来工法の基本と応用　浅野平八・東　敏博
コンクリート工事のチェックポイント100　加賀秀治
インテリアコーディネートの100ポイント　町田ひろ子監修／松本　茂・村元俊子著
新版 建築基準法を読みこなすコツ　高木任之
木づくりの常識非常識　上村　武
建築関連法規を読みこなすコツ　高木任之
都市計画法読みこなすコツ　高木任之

日本建築協会創立70周年記念事業

選書特装版

B5判　発行:学芸出版社　本体価格¥2,800～¥3,800

構造コストと経済設計　須賀好富
新・建築と設備の接点　宮脇　毅・南部　武
建築設備の健康診断　牧野　茂
外壁構法チェックリスト　飯塚五郎蔵
水にまつわるトラブルの事例・解決策〈建築篇〉　「建築漏水」編集委員会
建築・都市・住宅・土木ー情報アクセスブック　菊岡倶也
建築デザインのための構造計画　須賀好富
場所打ち杭の設計と施工　阪口　理
建築と緑　瀧　光夫
入門・建築積算　生島道春
水にまつわるトラブルの事例・解決策〈設備篇〉　「設備漏水」編集委員会

昭和生まれ　関西の建築家50　1987年

A4判　企画・発行：日本建築協会　本体価格1,500円

日本建築協会建築クラブ朝食会300回記念

講演記録集 **話のはなし**　1997年

B6判5分冊　企画:日本建築協会建築クラブ　1セット10,000円(消費税含む)

民間（旧四会）連合協定

工事請負契約約款　A4判のみ取り扱い

工事請負契約書・仲裁合意書・契約書使用上の留意事項
1部¥230（消費税含）送料 実費

日本建築協会創立70周年記念出版

住宅近代化への歩みと日本建築協会　1988年

A4判　企画・発行：日本建築協会　本体価格1,500円

日本建築協会創立75周年記念出版

工高生デザインコンクール入選作品集　1992年

A4判　企画・発行：日本建築協会　定価2,000円

日本建築協会創立80周年記念出版

建築を志す人びとへ

A5判　日本建築協会出版委員会編著　本体価格1,800円

軽量気泡コンクリート

シポレックス



全　　社　ISO　9001 取得
三重工場　ISO　14001 取得

資料請求は、下記の支店・営業所までお問い合わせください。

住友金属鉱山シポレックス株式会社

本　社	〒105-0004	東京都港区新橋5-11-3（新橋住友ビル）	☎(03)3435-4660
北海道	〒060-0001	札幌市中央区北一条西3-3（住友信託ビル）	☎(011)281-6711
東　北	〒980-0803	仙台市青葉区国分町1-2-1（仙台フコク生命ビル）	☎(022)222-1588
関　東	〒105-0004	東京都港区新橋5-11-3（新橋住友ビル）	☎(03)3435-4670
中　部	〒460-0008	名古屋市中区栄2-13-1（白川第2ビル）	☎(052)204-0761
関　西	〒541-0053	大阪市中央区本町3-2-6（フーバー本町ビル）	☎(06)6243-7251
中　国	〒730-0011	広島市中区基町5-44（商工会議所ビル）	☎(082)211-0116
九　州	〒810-0001	福岡市中央区天神2-12-1（天神ビル）	☎(092)735-2274
工場　国富	〒048-2143	北海道岩内郡共和町国富68	☎(0135)72-1210
栃　木	〒324-0693	栃木県那須郡馬頭町大字松野923	☎(0287)92-5111
三　重	〒519-1106	三重県鈴鹿郡関町大字会下1117-11	☎(05959)6-1131

ホームページアドレス http://www.sumitomo-siporex.co.jp

定価1,200円（●本体1,143円●消費税57円●送料共）正会員の購読料は会費に含めて徴収